

2012年衆院選世論調査の分析 最終版

2015年1月
慶應義塾大学濱岡ゼミ
黒澤遼太
田中悠詩
平野貴羅

目次

1. はじめに
2. 分析における基本事項
3. 政党選択の分析(投票時の情報利用との関係)
4. 政党選択の分析(政治思想との関係)
5. 政党選択の分析(外交感情との関係)
6. 投票率の分析(政策評価との関係)
7. 投票率の分析(外交感情との関係)
8. SNSの利用と選挙行動の分析(クロス集計)
9. まとめ
10. 参考文献
11. 参考資料 (変数の単純集計結果)

1. はじめに

はじめに(目的)

1. 目的

東京大学大学院谷口将紀研究室と朝日新聞の共同調査の2012年の第46回衆院選挙での調査データを分析し、そこから、有権者の投票行動 (投票率、政党選択)決定要因をさぐるとともに、選挙の現状を理解する。

データ元 (<http://www.masaki.j.u-tokyo.ac.jp/utas/utasv.html>)

2. 本調査で分かったことの要約

投票を行っている人は高年齢であり、また前回投票に言ったものが継続的に投票していることが分かった。そこから選挙に行く層は決まっており、若者の選挙離れの傾向をうかがうことが出来た。ただ新党に対して投票している人は年齢の低い人が多く、若者は新党に対して期待を示していたことが分かった。

政党選択の際には政策の重視度は有意な影響を与えていなかった。また一つ一つの政策の評価と政党選択の関係を見ても、政党間で大きな差異を見つけることはできなかった。そこから有権者が政党選択を行う際には政策以外の要素(投手の魅力、メディアの影響)が大きな役割を果たしているのではないかと考えられた。

はじめに(データの収集方法)

1. データについて

第1回調査は、第46回衆議院総選挙(2012年12月16日投票)の直後に、全国の有権者から層化二段無作為抽出法で抽出された3000人を対象に郵送法によって行う。投票日前日の12月15日に調査票を発送し、1月末までに1900通の有効回答(回収率63.3%)

はじめに(第46回衆院選挙の概要)

1. 2012年の第46回衆院選選挙情勢

当時の野田首相が消費税増税の是非を問うとして衆院を解散したことによる選挙。『**近いうち解散**』 民主党政権発足後、初の衆院選。
民主党は2010年の参院選では**自民党に惨敗を喫していた**。

はじめに(第46回衆院選挙の概要)

主な政党の公約一覧

	民主党	自民党	維新の党	みんなの党
党首	安部晋三	野田佳彦	石原慎太郎	渡辺善美
消費増税	賛成	賛成	地方税化	反対
TPP	聖域なき関税撤廃には反対	賛成	反対	賛成
原発	三年以内に再開稼働か判断	脱原発	脱原発	脱原発
憲法改正	慎重	積極	積極	?
外交	アジアも重視	日米同盟を軸に	?	日米同盟を深化
定数削減	積極	?	積極	積極

分析では左の4党に絞って
分析を行っている
※公明党は自公に統一

はじめに(第46回衆院選挙の概要)



1. 自民党が圧勝 (民主党から自民党への政権交代)
2. アベノミクスへの布石 (経済を取り戻す 日本を取り戻す)
3. 投票率が59.32% 戦後最低の水準

はじめに(先行研究)

1. 先行研究

分析を開始するにあたって、谷口氏の取り組んだ分析を先行研究として紹介する
(雑誌『世界』より)

2. 谷口氏は以下のトピックで分析

第45回衆院選(民主党が政権をとった選挙)で民主党に投票した人は、第46回衆院選ではどこにながれたのか？(スイッチングに関する分析)

→下のようにグループ分け

26%は民主党(45回・46回民主一貫グループ)

20%は自民党(45回民主→46回自民グループ)

24%は維新の党(45回民主→46回維新グループ)

はじめに(先行研究)

1. 先行研究(谷口氏によるグループ分けの概要)

○民主→自民グループ
憲法改正や集団的自衛権行使などでタカ派より
原発再稼働にはやや賛成より
公共事業など従来型の財政事業に積極的

○民主→維新グループ
タカ派より
首相公選制や道州制に積極的
もっとも政治不信が強い(政治規制に積極的)

○民主一貫グループ
穏健派、中立的

2. 分析における基本事項

基本事項（無回答の処理方法）

	問13～問17	問31～問33
投票した人	○	○
無投票無該当の人	×	○

※○=回答有り ×=回答なし

1. 問13～問17は投票した人にしか回答させていない。
→投票者の回答のみで多項ロジット分析を行う。
2. 問31～問33では無投票の回答もある。その為**二つのパターン**で検証
→投票者のみのデータを利用した多項ロジット分析（政党選択）
→無投票者のデータも含め、投票と無投票の二項ロジット分析（投票率）

基本事項(被説明変数)

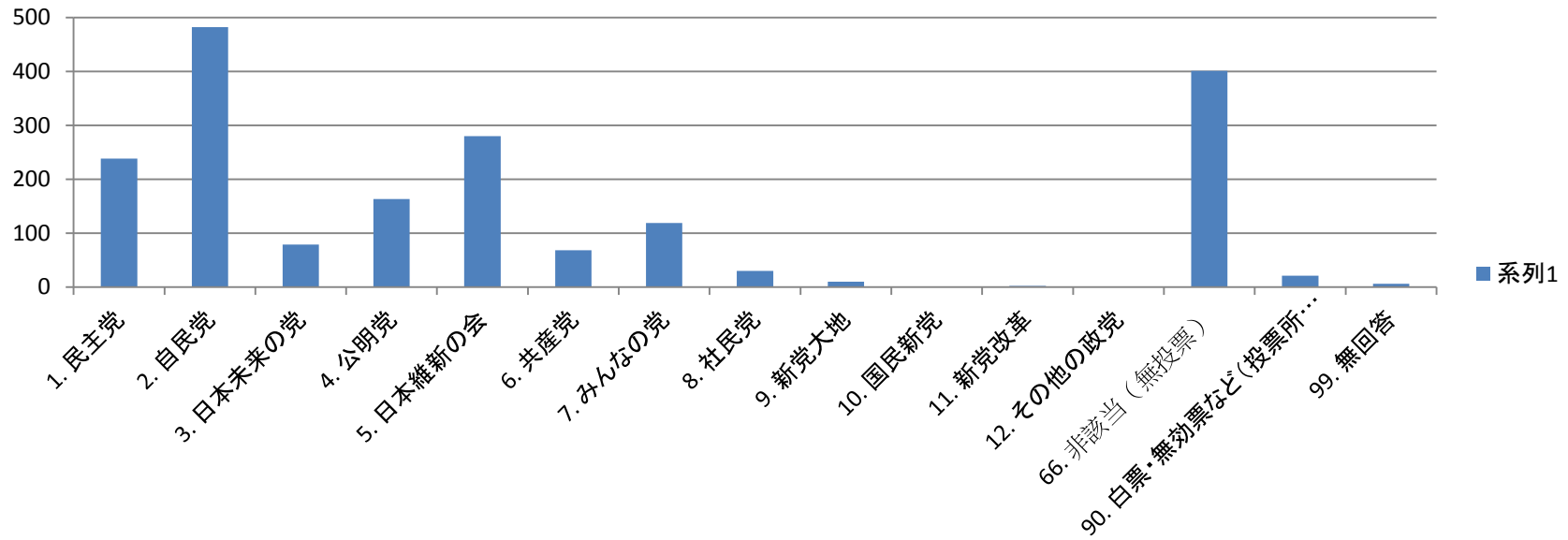
1. 政党選択に関する分析における被説明変数 (2012年の選挙の比例投票先ダミー)
 1. 民主ダミー
 2. 自公ダミー
 3. 維新ダミー
 4. みんなダミー
 5. その他(日本未来の党、共産党、社民党、新党大地、国民新党、新党改革、その他の政党、非該当(無投票)、白票・無効票、無回答)←多項ロジット分析の基準
2. 投票率に関する分析における被説明変数 (2012年選挙の投票無投票ダミー)
 - 0.投票しない
 - 1.投票

→1. の分析では多項ロジット分析、2. の分析では二項ロジット分析を行った。
→今回の分析では選挙区間の差をなくすために比例代表への投票動向に限って分析を行った。

基本事項(政党選択に関する分析における被説明変数の単純集計結果)

1. 政党選択に関する分析における被説明変数の単純集計結果

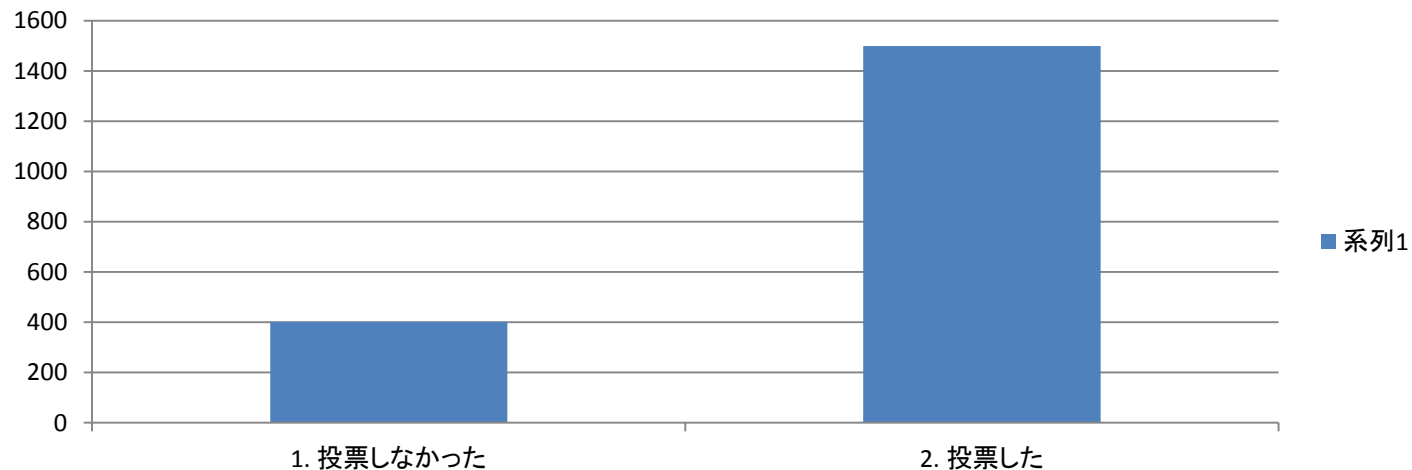
分析における被説明変数の単純集計結果を以下に示しておく。政党選択においては前述のとおり、以下の集計結果から5つの被説明変数を設定した。実際の選挙結果同様に自民が多く得票数を得ている。質問票などの詳しい内容はスライドの71ページを参照。



基本事項(投票率に関する分析における被説明変数の単純集計結果)

1.投票率に関する分析における被説明変数の単純集計結果

投票率に関する分析を行う際の被説明変数の単純集計結果は以下の様になった。この集計結果を見ると実際の投票率よりもデータ内の投票率は若干高く(77.4%)データには何らかの偏りがある可能性がある。質問票などの詳しい内容はスライドの70ページを参照。



基本事項（前回投票ダミー変数）

1. 前回（2010年）比例投票先ダミーの設定

前回（2010年）の選挙からのスイッチングを分析するために問19からダミー変数を設定

Zikou=前回比例で自民党、公明党に入れた人

Minsyu=前回比例で民主、国民新党、社民党に入れた人(連立していたので)
下図参考

	zikou	minsyu	その他
自民公明	1	0	0
民主 国民	0	1	0
その他 無投票	0	0	0

基本事項(変数の単純集計結果について)

1. 各変数の単純集計結果について

今回の分析で利用した変数の(問2問13問14問15問16問17問19問25問31問32問33問42)単純集計結果は巻末に参考資料として示しておく。

多項ロジットモデルの結果の読み方 について

1. 多項ロジット分析の結果の見方について

→今回、政党選択に関する分析を行う際に多項ロジット分析という手法を用いた。前のスライドで説明した通り5. その他を基準とした時に他の選択肢に移る確率が数値として現れる。この点を留意した上で分析結果を理解してほしい。

→今回は投票の選択肢として5.その他が一番数が少なかったのが基準として採用した。

3. 政党選択の分析(投票時の情報利用との関係)

説明変数について(政党選択の分析 (投票時の情報利用との関係))

問13

マスメディアの報じる選挙情勢を重視するか

問14

候補者の掲げる政策や公約を重視するか

問15

民主党政権の仕事ぶりを重視するか

問16

政党の党首の能力や魅力を重視するか

問17

個々の候補者の魅力や能力を重視するか

※上の質問はいずれも5段階のリッカート尺度で測定されている。(1、重視する～5、重視しない)

説明変数について(政党選択の分析 (投票時の情報利用との関係))

問42

選挙時点での年齢

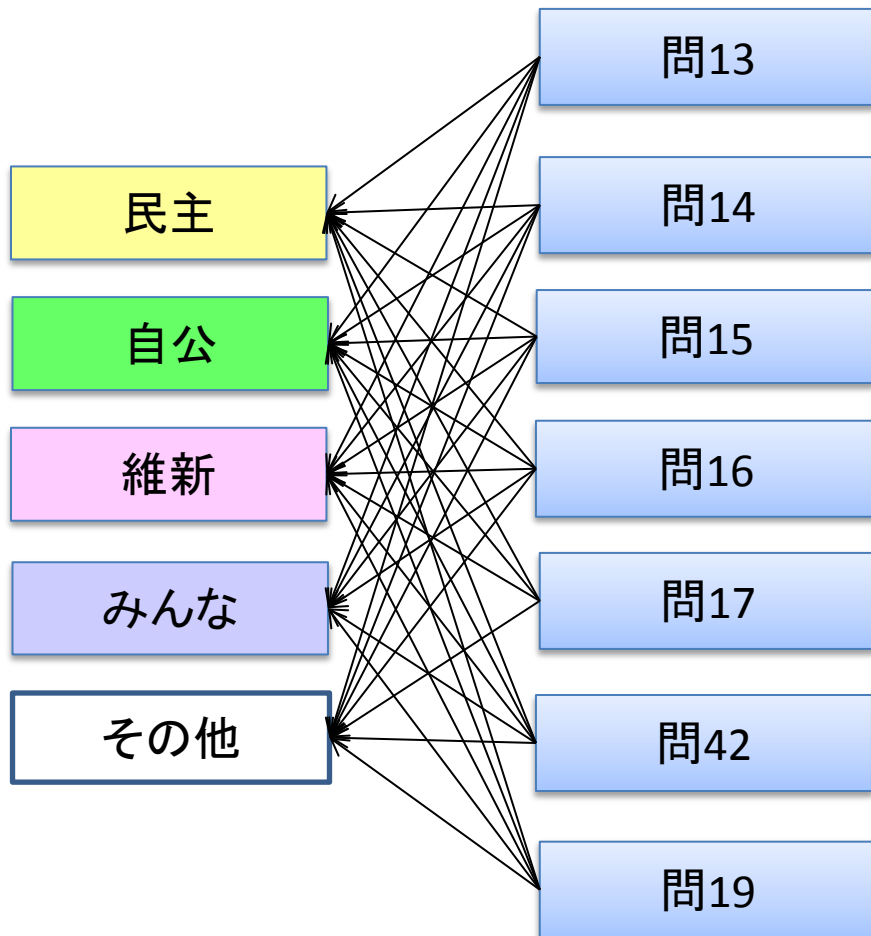
(1、20歳代 2、30歳代 3、40歳代 4、50歳代 5、60歳代 6、70歳代)

問19

前回投票先ダミー

スライド14ページ参考

パス図(政党選択の分析(投票時の情報利用との関係))



1. 分析の概要

政党選択と情報利用の関係を分析するため、問13から問17を説明変数として分析を行う。これらの設問は投票を行った人のみが解答対象となっているため、その他を基準に多項ロジット分析のみを行う。そのパス図を次に示す。

2. 単純集計結果

質問票、単純集計結果はスライド71,73~78,94ページを参照。

分析結果1/3(政党選択の分析(投票時の情報利用との関係))

投票先	項目	係数	標準誤差	z値	p値
民主	(Intercept)	0.826	0.604	1.367	0.171
	q13マスメディアの報じる選挙情勢を重視するか	-0.332	0.087	-3.81	0.000***
	q14候補者の掲げる政策や公約を重視するか	0.673	0.129	5.211	1.88e-07 ***
	q15民主党政権の仕事ぶりを重視するか	-0.296	0.09	-3.3	0.001 ***
	q16政党の党首の能力や魅力を重視するか	-0.226	0.105	-2.15	0.032 *
	q17個々の候補者の魅力や能力を重視するか	-0.176	0.108	-1.64	0.102
	q42選挙時点での年齢	-0.066	0.071	-0.94	0.349
	q19前回選挙で自民党・公明党に投票した	2.789	0.595	4.689	2.75e-06 ***
	q19前回選挙で民主党に投票した	1.203	0.274	4.394	1.11e-05 ***
自民党・公明党	(Intercept)	1.834	0.546	3.358	0.001 ***
	q13マスメディアの報じる選挙情勢を重視するか	-0.372	0.081	-4.59	4.37e-06 ***
	q14候補者の掲げる政策や公約を重視するか	0.455	0.12	3.778	0.000 ***
	q15民主党政権の仕事ぶりを重視するか	-0.118	0.08	-1.47	0.142
	q16政党の党首の能力や魅力を重視するか	-0.135	0.097	-1.39	0.163
	q17個々の候補者の魅力や能力を重視するか	-0.068	0.1	-0.68	0.498
	q42選挙時点での年齢	-0.155	0.065	-2.4	0.016 *
	q19前回選挙で自民党・公明党に投票した	4.598	0.541	8.501	< 2e-16 ***
	q19前回選挙で民主党に投票した	0.182	0.222	0.819	0.413

分析結果2/3(政党選択の分析(投票時の情報利用との関係))

投票先	項目	係数	標準誤差	z値	p値
維新の会	(Intercept)	2.136	0.571	3.741	0.000***
	q13マスメディアの報じる選挙情勢を重視するか	-0.325	0.084	-3.86	0.000***
	q14候補者の掲げる政策や公約を重視するか	0.631	0.126	5.025	5.03e-07 ***
	q15民主党政権の仕事ぶりを重視するか	-0.069	0.084	-0.82	0.412
	q16政党の党首の能力や魅力を重視するか	-0.654	0.107	-6.12	9.44e-10 ***
	q17個々の候補者の魅力や能力を重視するか	0.057	0.103	0.557	0.578
	q42選挙時点での年齢	-0.287	0.068	-4.25	2.15e-05 ***
	q19前回選挙で自民党・公明党に投票した	2.943	0.563	5.231	1.69e-07 ***
	q19前回選挙で民主党に投票した	0.607	0.239	2.542	0.011 *

分析結果3/3(政党選択の分析(投票時の情報利用との関係))

投票先	項目	係数	標準誤差	z値	p値
みんなの党	(Intercept)	1.728	0.671	2.574	0.010*
	q13マスメディアの報じる選挙情勢を重視するか	-0.335	0.101	-3.3	0.001**
	q14候補者の掲げる政策や公約を重視するか	0.351	0.15	2.342	0.02 *
	q15民主党政権の仕事ぶりを重視するか	-0.193	0.103	-1.86	0.062 .
	q16政党の党首の能力や魅力を重視するか	-0.414	0.125	-3.31	0.001 ***
	q17個々の候補者の魅力や能力を重視するか	0.182	0.12	1.512	0.13
	q42選挙時点での年齢	-0.156	0.08	-1.96	0.050 .
	q19前回選挙で自民党・公明党に投票した	0.123	0.797	0.155	0.877
	q19前回選挙で民主党に投票した	-0.262	0.259	-1.01	0.31

※有意水準について ***:0.1%水準 ** :1%水準* :5%水準 . :10%水準

※有効数字は小数第四位を四捨五入して小数第三位まで示す。

※N=1472

考察(分析結果(政党選択の分析(投票時の情報利用との関係)))

1. 有権者はマスメディアの選挙情勢報道について注視して投票している。ただし4党に有意な差は見られなかった。
2. 公約については投票選択の要因として重視されていない。
→公約に関して訴えかける選挙活動はあまり意味がない可能性がある。
3. 民主党政権の仕事ぶりを重視する有権者は民主党に投票する。
4. 政党の党首について重視するほど、維新の会やみんなの党に投票。
→代表の橋本氏や石原氏への人気は高く、維新の党というよりは両氏への期待の表れ
5. 維新の党は若い有権者の支持を多く集めている。
→新党という新しさに若者が惹かれた可能性がある。
6. 前回投票先が自公でも民主や維新に流れた有権者もいることがわかる。ただし、今回も自公に投票した有権者が多い。
7. 前回投票先が民主の有権者は今回も民主に多く投票しているが、維新に流れた有権者もいる

4. 政党選択の分析(政治思想との関係)

説明変数について(政党選択の分析 (政治思想との関係))

問31-1

外交姿勢(1、米国優先～5、アジア優先)

問31-2

格差是正か競争重視か

(1、経済競争力向上を重視～5、格差是正重視)

問31-3

貿易(1、国内産業の保護優先～5、貿易自由化)

問31-4

環境保護

(1、環境保護を最優先～5、あまり重視しない)

問31-5

理想とする家族形態

(1、夫婦と複数の子供～5、シングルマザーなど多様に)

説明変数について(政党選択の分析 (政治思想との関係))

問31-6

原発問題(1、卒原発～5、続原発)

問31-7

政治資金規正

(1、現状は厳しすぎる～5、さらなる規制必要)

問31-8

国会の役割

(1、与野党が意見を戦わせる～5、与野党は意見を調整しあう)

問31-9

党議拘束

(1、党議拘束は必要～5、党議拘束は不必要)

問42

選挙時点での年齢

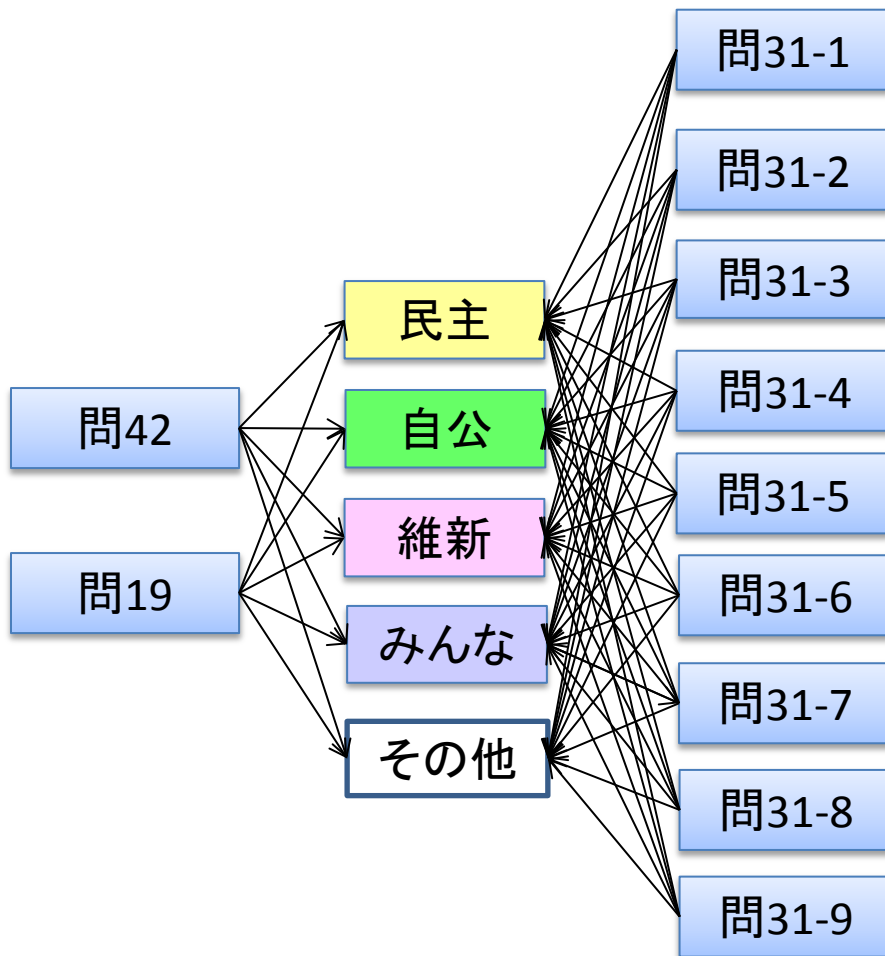
(1、20歳代 2、30歳代 3、40歳代 4、50歳代 5、60歳代 6、70歳代)

問19

前回投票先ダミー

スライド14ページ参考

パス図(政党選択の分析(政治思想との関係))



1. 分析の概要

政党選択と政策評価の関係分析するため、問31、問19、問42を説明変数として多項ロジット分析を行う。パス図を左に示す。

2. 単純集計結果

質問票、単純集計結果はスライド71,78,80~88,94ページを参照。

分析結果1/4(政党選択の分析(政治思想との関係))

投票先	質問項目	係数	標準誤差	z値	p値
民主	(Intercept)	-1.706	0.873	-1.955	0.051 .
	q31.1外交姿勢	-0.109	0.1	-1.091	0.275
	q31.2格差是正か競争重視か	-0.153	0.108	-1.414	0.158
	q31.3貿易	0.395	0.102	3.861	0.000 ***
	q31.4環境保護	0.105	0.112	0.945	0.345
	q31.5理想とする家族形態	-0.069	0.087	-0.793	0.428
	q31.6原発問題	0.338	0.097	3.493	0.000 ***
	q31.7政治資金規正	-0.05	0.113	-0.445	0.657
	q31.8国会の役割	0.229	0.091	2.514	0.012 *
	q31.9党議拘束	-0.18375	0.09	-2.042	0.041 *
	q42選挙時点での年齢	-0.03181	0.074	-0.432	0.665
	q19前回選挙で自民党・公明党に投票した	2.649286	0.596	4.442	8.90e-06 ***
	q19前回選挙で民主党に投票した	1.389101	0.28	4.966	6.83e-07 ***

分析結果2/4(政党選択の分析(政治思想との関係))

投票先	質問項目	係数	標準誤差	z値	p値
自民党・公明党	(Intercept)	1.628	0.809	2.013	0.044 *
	q31.1外交姿勢	-0.334	0.097	-3.421	0.001 ***
	q31.2格差是正か競争重視か	-0.433	0.105	-4.141	3.46e-05 ***
	q31.3貿易	0.175	0.102	1.723	0.085 .
	q31.4環境保護	0.218	0.108	2.021	0.043 *
	q31.5理想とする家族形態	-0.037	0.084	-0.434	0.664
	q31.6原発問題	0.505	0.093	5.426	5.75e-08 ***
	q31.7政治資金規正	-0.215	0.108	-2.001	0.045 *
	q31.8国会の役割	0.202	0.09	2.252	0.024 *
	q31.9党議拘束	-0.21342	0.088	-2.415	0.016 *
	q42選挙時点での年齢	-0.13421	0.069	-1.938	0.053 .
	q19前回選挙で自民党・公明党に投票した	4.312136	0.547	7.881	3.24e-15 ***
	q19前回選挙で民主党に投票した	0.35672	0.239	1.493	0.135

分析結果3/4(政党選択の分析(政治思想との関係))

投票先	質問項目	係数	標準誤差	z値	p値
維新の会	(Intercept)	0.726	0.835	0.87	0.384
	q31.1外交姿勢	-0.328	0.099	-3.298	0.001 ***
	q31.2格差是正か競争重視か	-0.469	0.106	-4.417	1.00e-05 ***
	q31.3貿易	0.374	0.101	3.69	0.000 ***
	q31.4環境保護	0.143	0.11	1.3	0.194
	q31.5理想とする家族形態	-0.085	0.085	-0.997	0.319
	q31.6原発問題	0.276	0.095	2.913	0.004 **
	q31.7政治資金規正	0.002	0.111	0.021	0.984
	q31.8国会の役割	0.278	0.091	3.044	0.002 **
	q31.9党議拘束	-0.05684	0.09	-0.631	0.528
	q42選挙時点での年齢	-0.2652	0.07	-3.764	0.000 ***
	q19前回選挙で自民党・公明党に投票した	2.812571	0.566	4.972	6.63e-07 ***
	q19前回選挙で民主党に投票した	0.693331	0.247	2.804	0.005 **

分析結果4/4(政党選択の分析(政治思想との関係))

投票先	質問項目	係数	標準誤差	z値	p値
みんなの党	(Intercept)	0.098	0.1	0.098	0.922
	q31.1外交姿勢	-0.209	0.119	-1.753	0.080 .
	q31.2格差是正か競争重視か	-0.447	0.125	-3.565	0.000 ***
	q31.3貿易	0.393	0.118	3.331	0.0015 ***
	q31.4環境保護	-0.064	0.135	-0.476	0.634
	q31.5理想とする家族形態	-0.089	0.101	-0.875	0.381
	q31.6原発問題	0.251	0.111	2.259	0.024 *
	q31.7政治資金規正	0.043	0.134	0.324	0.746
	q31.8国会の役割	0.28	0.111	2.527	0.012 *
	q31.9党議拘束	-0.01653	0.109	-0.152	0.879
	q42選挙時点での年齢	-0.15654	0.083	-1.884	0.060 .
	q19前回選挙で自民党・公明党に投票した	-0.04241	0.798	-0.053	0.958
	q19前回選挙で民主党に投票した	-0.2051	0.267	-0.769	0.442

※有意水準について ***:0.1%水準 ** :1%水準* :5%水準 . :10%水準

※有効数字は小数第四位を四捨五入して小数第三位まで示す。

※N=1472

考察1/2(政党選択の分析(政治思想との関係))

1. 米国を優先する有権者ほど自民党や維新の党へ投票
→安部氏や橋下氏はアジア(中国や韓国)に対して強気の姿勢・タカ派で、米国優先の有権者の支持を集めたか
2. 競争力重視の有権者ほど自民党・維新の党・みんなの党へ投票
3. 貿易自由化派ほど民主・維新・みんなに投票
→三党はTPP参加派(条件付き賛成も含め)なので、TPP賛成派の支持を集めたか
4. 環境問題を重視しない有権者ほど自民党へ投票
5. 家族形態については有意な結果を得られなかった
6. いずれの4党についても続原発の有権者ほど投票する結果となってしまった
→自民党への投票の係数が高いことから、続原発の有権者は自民党に集まったことはわかった

考察2/2(政党選択の分析(政治思想との関係))

1. 政治資金規正が厳しすぎると感じる有権者は自民党に投票
2. 与野党の役割についての意見は差は見られなかった
3. 党議拘束が必要とする意見の有権者ほど自民・民主に投票
→大きな政党の支持者ほど造反などを嫌う傾向か
4. 維新の党は若い有権者の支持を多く集めている
→新党という新しさが持つ魅力。若者の期待が高かったことが分る。
5. 前回投票先が自公の有権者は今回も自公に投票した有権者多いが、一部は民主や維新に流入
6. 前回投票先が民主の有権者は今回も民主に投票した有権者()多いが、一部は維新に流入

5. 政党選択の分析(外交感情との関係)

説明変数について(政党選択の分析 (外交感情との関係))

問32

以下の国への親しみやすさを5段階評価
(1、親しみを感じる～5、親しみ感じない)

問32-1:アメリカ

問32-2:中国

問32-3:ロシア

問32-4:韓国

問33

政治思想

(1、左より～5、中間～10、右より)

問42

選挙時点での年齢

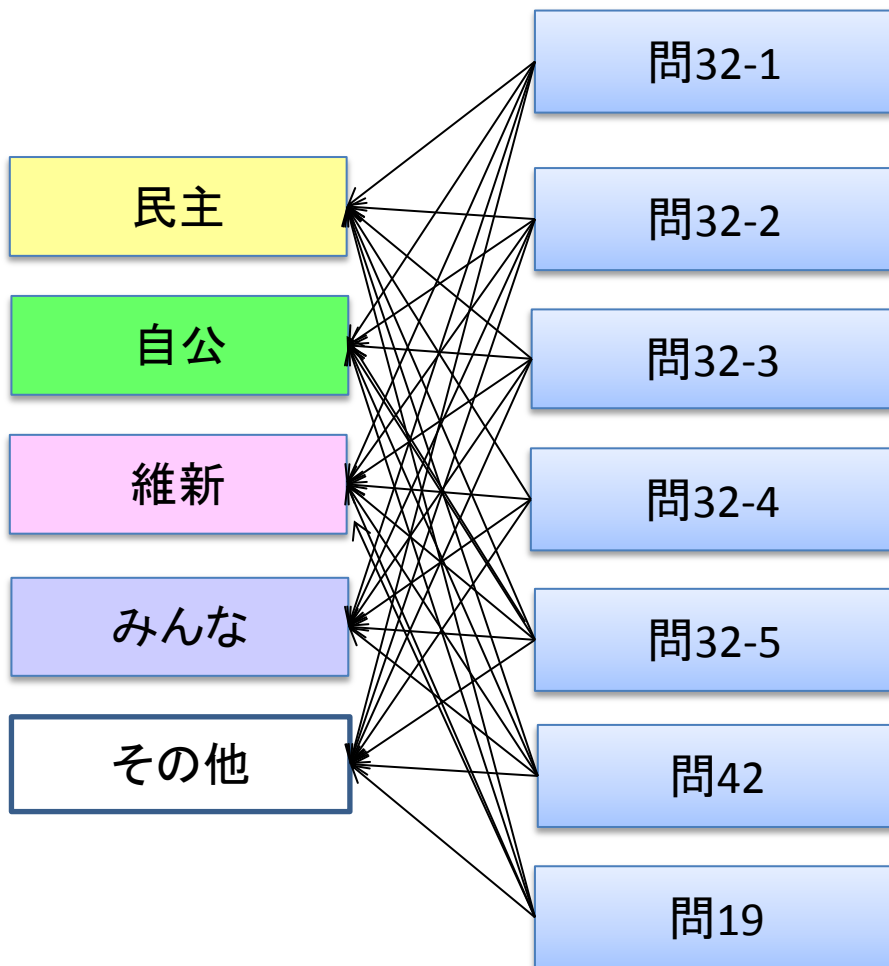
(1、20歳代 2、30歳代 3、40歳代 4、50歳代 5、60歳代 6、70歳代)

問19

前回投票先ダミー

スライド14ページ参考

パス図(政党選択の分析(外交感情との関係))



1. 分析の概要

政党選択と外交感情の関係を分析するため、問32,問33,問19,問42を説明変数として多項ロジット分析を行う。そのパス図を左に示す。

2. 単純集計結果

質問票、単純集計結果はスライド71,78,89~94ページを参照。

分析結果1/3(政党選択の分析(外交感情との関係))

投票先	質問項目	係数	標準誤差	z値	p値
民主	(Intercept)	-1.911	0.692	-2.763	0.006 **
	q32.1アメリカへの親しみやすさ	-0.265	0.121	-2.191	0.028 *
	q32.2中国への親しみやすさ	-0.045	0.112	-0.4	0.689
	q32.3ロシアへの親しみやすさ	0.182	0.124	1.465	0.143
	q32.4韓国への親しみやすさ	0.084	0.102	0.83	0.407
	q33政治思想	0.212	0.077	2.758	0.006 **
	q42選挙時点での年齢	-0.03153	0.06817	-0.463	0.644
	q19前回選挙で自民党・公明党に投票した	2.75377	0.59246	4.648	3.35e-06 ***
	q19前回選挙で民主党に投票した	1.22187	0.2717	4.497	6.89e-06 ***
自民党・公明党	(Intercept)	-1.693	0.644	-2.631	0.009 **
	q32.1アメリカへの親しみやすさ	-0.346	0.116	-2.992	0.003 **
	q32.2中国への親しみやすさ	0.01	0.107	0.096	0.924
	q32.3ロシアへの親しみやすさ	0.203	0.117	1.725	0.085 .
	q32.4韓国への親しみやすさ	0.146	0.096	1.523	0.128
	q33政治思想	0.366	0.073	5.02	5.17e-07 ***
	q42選挙時点での年齢	-0.11287	0.06321	-1.786	0.074 .
	q19前回選挙で自民党・公明党に投票した	4.48077	0.54115	8.28	< 2e-16 ***
	q19前回選挙で民主党に投票した	0.09773	0.22461	0.435	0.664

分析結果2/3(政党選択の分析(外交感情との関係))

投票先	質問項目	係数	標準誤差	z値	p値
維新の会	(Intercept)	-2.159	0.684	-3.158	0.002 **
	q32.1アメリカへの親しみやすさ	-0.478	0.123	-3.897	9.73e-05 ***
	q32.2中国への親しみやすさ	0.121	0.112	1.076	0.282
	q32.3ロシアへの親しみやすさ	0.296	0.122	2.428	0.015 *
	q32.4韓国への親しみやすさ	0.1	0.098	1.017	0.309
	q33政治思想	0.404	0.077	5.26	1.44e-07 ***
	q42選挙時点での年齢	-0.2413	0.06559	-3.679	0.000 ***
	q19前回選挙で自民党・公明党に投票した	2.89451	0.5639	5.133	2.85e-07 ***
	q19前回選挙で民主党に投票した	0.50366	0.24026	2.096	0.036 *

分析結果3/3(政党選択の分析(外交感情との関係))

投票先	質問項目	係数	標準誤差	z値	p値
みんなの党	(Intercept)	-5.128	0.893	-5.744	9.26e-09 ***
	q32.1アメリカへの親しみやすさ	-0.226	0.144	-1.569	0.117
	q32.2中国への親しみやすさ	0.248	0.15	1.649	0.099 .
	q32.3ロシアへの親しみやすさ	0.559	0.154	3.629	0.000 ***
	q32.4韓国への親しみやすさ	0.107	0.119	0.904	0.366
	q33政治思想	0.486	0.094	5.176	2.27e-07 ***
	q42選挙時点での年齢	-0.13835	0.07953	-1.74	0.082 .
	q19前回選挙で自民党・公明党に投票した	-0.01495	0.80038	-0.019	0.985
	q19前回選挙で民主党に投票した	-0.42052	0.26614	-1.58	0.114

※有意水準について ***:0.1%水準 ** :1%水準* :5%水準 . :10%水準

※有効数字は小数第四位を四捨五入して小数第三位まで示す。

※N=1472

考察(政党選択の分析(外交感情との関係))

1. アメリカに親近感をいただいている有権者ほど維新の党・自民党・民主党に投票
→アメリカ優先かアジア優先かの質問での結果と傾向は一致
2. 中国への感情はみんなの党以外は有意な結果なし。中国への親近感がない有権者ほどみんなの党に投票
3. ロシアに親近感がない有権者ほど自民党・維新の党・みんなの党へ投票。みんなの党で高い系数。
4. いずれの4党についても、右より有権者ほど投票するとなった。みんなの党で一番高い系数が出ている。
→ロシア・中国での分析結果を踏まえるとみんなの党は右翼的な政党とみられていたのか？
5. 以下は前出の分析結果と同様の傾向
 - 維新の党は若い有権者の支持を多く集めている
 - 前回投票先が自公の有権者は今回も自公に投票した有権者多いが、一部は民主や維新に流入
 - 前回投票先が民主の有権者は今回も民主に投票した有権者多いが、一部は維新に流入

6. 投票率の分析(政策評価との関係)

説明変数について(投票率の分析(政策評価との関係))

問31-1

外交姿勢(1、米国優先～5、アジア優先)

問31-2

格差是正か競争重視か

(1、経済競争力向上を重視～5、格差是正重視)

問31-3

貿易(1、国内産業の保護優先～5、貿易自由化)

問31-4

環境保護

(1、環境保護を最優先～5、あまり重視しない)

問31-5

理想とする家族形態

(1、夫婦と複数の子供～5、シングルマザーなど多様に)

説明変数について(投票率の分析(政策評価との関係))

問31-6

原発問題(1、卒原発～5、続原発)

問31-7

政治資金規正

(1、現状は厳しすぎる～5、さらなる規制必要)

問31-8

国会の役割

(1、与野党が意見を戦わせる～5、与野党は意見を調整しあう)

問31-9

党議拘束

(1、党議拘束は必要～5、党議拘束は不必要)

問42

選挙時点での年齢

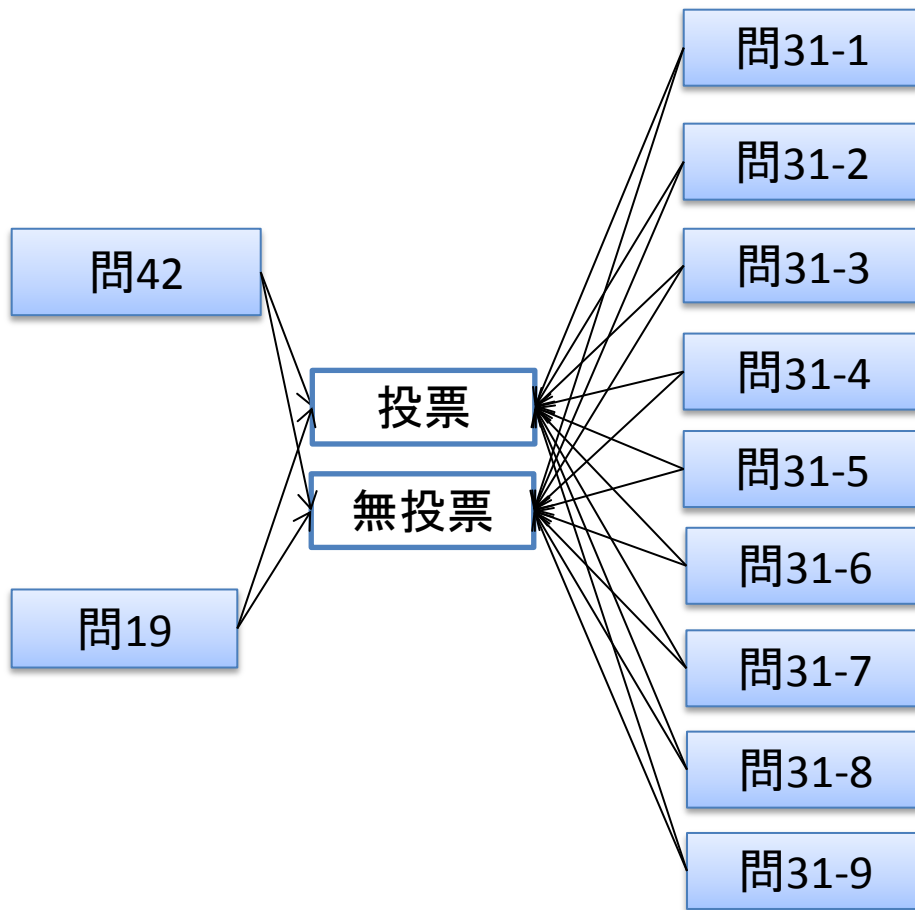
(1、20歳代 2、30歳代 3、40歳代 4、50歳代 5、60歳代 6、70歳代)

問19

前回投票先ダミー

スライド14ページ参考

パス図(投票率の分析(政策評価との関係))



1. 分析の概要

投票率と政策評価の関係を分析するため、問31,問42,問19を説明変数として二項ロジット分析を行う。そのパス図を左に示す。

2. 単純集計結果

質問票、単純集計結果はスライド70,78,80~88,94ページを参照。」

分析結果(投票率の分析(政策評価との関係))

項目	係数	標準誤差	z value	P値
(Intercept)	-0.162	0.474	-0.341	0.733
q31.1外交姿勢	-0.039	0.057	-0.672	0.502
q31.2格差是正か競争重視か	-0.023	0.06	-0.379	0.705
q31.3貿易	0.147	0.059	2.51	0.012 *
q31.4環境保護	-0.007	0.061	-0.114	0.909
q31.5理想とする家族形態	-0.079	0.048	-1.659	0.097 .
q31.6原発問題	-0.081	0.05	-1.614	0.107
q31.7政治資金規正	0.001	0.062	0.012	0.991
q31.8国会の役割	0.012	0.056	0.21	0.834
q31.9党議拘束	0.004	0.052	0.07	0.944
q42選挙時点での年齢	0.206	0.038	5.394	6.87e-08 ***
q19前回選挙で自民党・公明党に投票した	1.229	0.157	7.821	5.22e-15 ***
q19前回選挙で民主党に投票した	1.224	0.139	8.812	< 2e-16 ***

※有意水準について ***:0.1%水準 ** :1%水準* :5%水準 . :10%水準

※有効数字は小数第四位を四捨五入して小数第三位まで示す。

※N=1900

考察(投票率の分析(政策評価との関係))

1. 年齢が上の人ほど投票している結果となった。年配なほど政治への関心度が高いと考えられ、また長年の支持政党があるとも考えられる。若者の政治離れの傾向が見られた。
2. 理想とする家族形態として古風な「夫婦と複数の子供」という家庭を挙げる、もしくは理想に近いとする人ほど投票を行っている。若者の投票率が低いことを考えると当然の結果かもしれない。
3. 貿易の自由化を求めている人ほど投票の傾向がある。ただ、多項ロジット分析においてどの政党でもこの質問はすべて有意な正の相関がみられており、有権者全体として貿易の自由化を求める人ほど投票を行っているといえる。

7. 投票率の分析(外交感情との関係)

説明変数について(投票率の分析(外交感情との関係))

問32

以下の国への親しみやすさを5段階評価
(1、親しみを感じる～5、親しみ感じない)

問32-1:アメリカ

問32-2:中国

問32-3:ロシア

問32-4:韓国

問33

政治思想

(1、左より～5、中間～10、右より)

問42

選挙時点での年齢

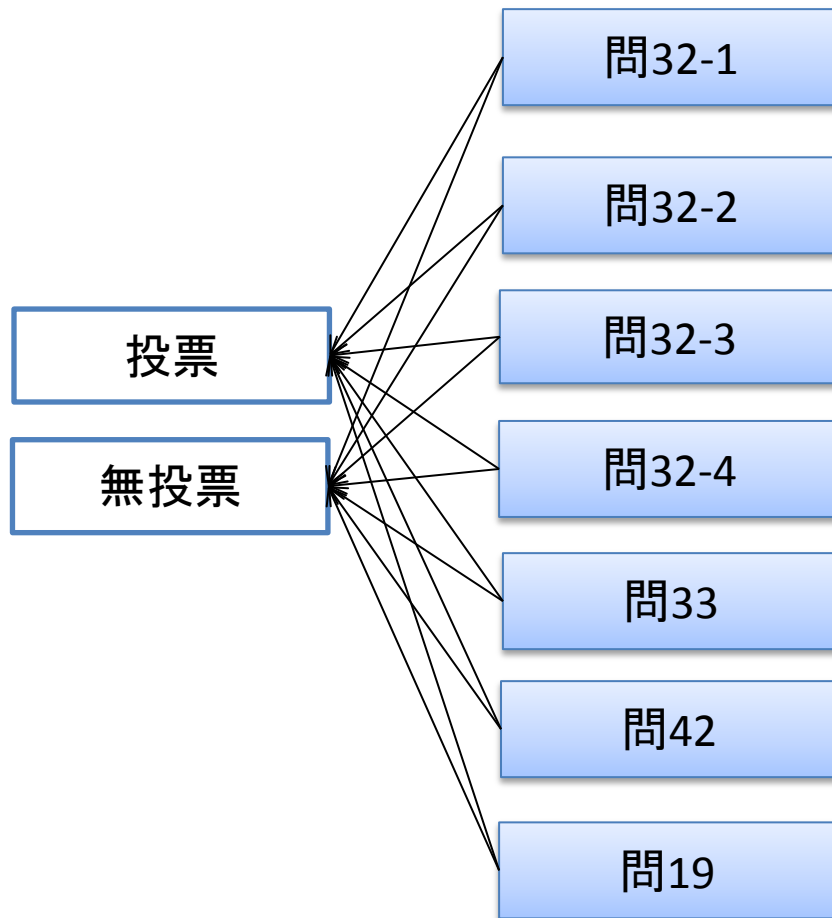
(1、20歳代 2、30歳代 3、40歳代 4、50歳代 5、60歳代 6、70歳代)

問19

前回投票先ダミー

スライド14ページ参考

パス図(投票率の分析(外交感情との関係))



1. 分析の概要

投票率と外交感情の関係を分析するため、問32,問33,問42,問19を説明変数として二項ロジット分析を行う。そのパス図を以下に示す。

2. 単純集計結果

質問票、単純集計結果はスライド70,78,89~94ページを参照。

分析結果(投票率の分析(外交感情との関係))

項目	係数	標準誤差	z value	P値
(Intercept)	-0.363	0.385	-0.943	0.3459
q32.1アメリカへの親しみやすさ	-0.205	0.069	-2.961	0.00306 **
q32.2中国への親しみやすさ	-0.143	0.069	-2.074	0.03808 *
q32.3ロシアへの親しみやすさ	0.074	0.071	1.033	0.30161
q32.4韓国への親しみやすさ	0.118	0.057	2.07	0.03847 *
q33政治思想	0.052	0.043	1.195	0.23226
q42選挙時点での年齢	0.224	0.037	6.042	1.52e-09 ***
q19前回選挙で自民党・公明党に投票した	1.169	0.155	7.555	4.19e-14 ***
q19前回選挙で民主党に投票した	1.242	0.138	8.99	< 2e-16 ***

※有意水準について ***:0.1%水準 **:1%水準* :5%水準 . :10%水準

※有効数字は小数第四位を四捨五入して小数第三位まで示す。

※N=1900

考察

1. 投票者の特性

→親米、親中国、年齢高

→若者の選挙離れの傾向がうかがえる。

2. 前回投票した人は今回も投票している。

→選挙に行くひとは決まっている可能性が高い。選挙に一回行けば今後とも継続的に選挙に行く可能性がある。

8.SNSの利用と選挙行動の分析(クロス集計)

SNSの利用と選挙行動の分析(クロス集計)

1. SNS利用と投票行動の関係を探る。問25を利用した分析を行った。問25の単純集計結果はスライド77ページを参照。

問25 [Q012500] あなたは、普段インターネットで、ツイッターやフェイスブックなどのSNS(ソーシャルネットワークサービス)をどのくらい利用していますか。

- 0、全く利用しない～
- 1、週に一回以下
- 2、数日に一回
- 3、毎日一回
- 4、一日数回以上
- 99、無回答

SNSの利用と選挙行動の分析(クロス集計)

以下の三つのクロス集計表からSNS利用の投票行動への影響を探る。

1. 年齢とSNS利用とのクロス集計
2. 投票先とのSNSとの利用のクロス集計 (投票したサンプルのみを抽出)
3. 投票の有無とSNS利用のクロス集計 (白票・無回答の有権者は無視)

クロス集計結果(SNSの利用と選挙行動の分析(クロス集計))

年齢とSNS利用者をクロス集計(単位は人(%))

年齢	SNS利用頻度							総計
	全く利用しない	週に一回以下	数日に一回	毎日一回	一日に数回以上	無回答		
20歳代	59(36)	8(5)	10(6)	23(14)	62(37)	4(2)	166(100)	
30歳代	139(55)	17(7)	24(9)	28(11)	40(16)	7(2)	255(100)	
40歳代	212(67)	15(5)	32(10)	26(8)	26(8)	5(2)	316(100)	
50歳代	279(76)	22(6)	23(6)	11(3)	18(5)	13(4)	366(100)	
60歳代	295(78)	9(2)	14(4)	7(2)	7(2)	46(12)	378(100)	
70歳以上	316(75)	11(3)	9(2)	6(1)	2(1)	75(18)	419(100)	
総計	1300(69)	82(4)	112(6)	101(5)	155(8)	150(8)	1900(100)	

クロス集計結果(SNSの利用と選挙行動の分析(クロス集計))

投票先とSNS利用でクロス集計(単位は人(%))

	SNS利用頻度							総計
	全く利用しない	週に一回以下	数日に一回	毎日一回	一日に数回以上	無回答		
投票先	民主党	173(73)	3(1)	15(6)	12(5)	17(7)	18(8)	238(100)
	自民党・公明党	436(68)	33(5)	35(6)	20(3)	41(6)	78(12)	643(100)
	日本維新の会	165(58)	12(5)	25(9)	23(8)	35(13)	20(7)	280(100)
	みんなの党	90(76)	7(6)	3(3)	6(5)	5(4)	8(6)	119(100)
	その他の党	139(71)	9(5)	9(5)	14(7)	11(6)	11(6)	193(100)
	総計	1003(68)	64(4)	87(6)	75(5)	109(7)	135(9)	1473(100)

クロス集計結果(SNSの利用と選挙行動の分析(クロス集計))

投票の有無とSNS利用でクロス集計(単位は人(%))

		SNS利用頻度						
		全く利用しない	週に一回以下	数日に一回	毎日一回	一日に数回以上	無回答	総計
投票の有無	投票	1003(68)	64(4)	87(6)	75(5)	109(7)	135(9)	1473(100)
	投票しない	281(70)	17(4)	22(6)	24(6)	42(10)	15(4)	401(100)
	総計	1284(69)	81(4)	109(6)	99(5)	151(8)	150(8)	1874(100)

考察(SNSの利用と選挙行動の分析(クロス集計))

1. 維新の会に投票した者はSNS利用頻度が高い者が多い。
→ 維新の会は他の党に比べて、改革志向の新しい政党。SNS利用者はそうした新しい政党に投票しやすいのか。
2. SNS利用は投票行動に有意な差はもたらさない。
→ 投票の有無には関係しそうだと予想していたが、これも大きな差はなかった。
3. ただ、維新の会という新しい政党にはSNS利用者の支持が多く集まっていることから、このような「新しさ」を政治にもたらすことができれば、投票する有権者が増えて、投票率があがるのではないだろうか。SNS利用者は若者が多いことも考えると、若者の投票率改善にもつながるはずだ。
4. 今回に調査は若者のサンプルが少なく、つまりSNS利用者が少ないので、結果に大きな影響を与えない結果となったのかもしれない。

9. まとめ

まとめ(政党選択に関する考察)

1. 党首の魅力は政党選択に有意な影響があり、日本維新の会は党首の魅力で支持を集めていた。一方で、公約はあまり重視されていない結果となった。
2. 外交姿勢で有意な影響があったのは、アメリカと中国への外交姿勢。親アメリカ・反中国の有権者の支持政党は一貫して自民党が中心。
3. TPPや原発問題という大きなトピックに関しては政党選択に関してある程度参考にされていることがわかった。
4. しかし、全体的に公約や政策は予想以上に重視されておらず、政党選択にはそれ以外の要素(党首の魅力など)が重視されていることがわかった。

まとめ(投票率に関する考察)

1. 選挙にいく人の層は高年齢な人であり、若者は投票していないことが分る。ただ新党(維新、みんな)のような新しい政党には若者も投票している。若者は政治不信に陥って入るよううかがえるが、新党にはある程度期待を示している。
2. 全体として前回の選挙に参加していると次の選挙に参加していることが分った。つまり何か選挙に行くきっかけを一度でも与えれば、投票率を上げることに繋がる可能性がある。
3. 中国やアメリカへの外交姿勢は一貫して有意な決定要因。有権者が特に意識している外交関係はアメリカと中国であるということが分った。
4. SNSの利用は直接に投票率には影響しない結果となった。しかし、「目新しさ」を表現できれば、若者が多いSNS利用者が投票に足を向けるようになると考える。

まとめ(分析上の課題)

1. 今回は政党選択の分析と投票率の分析を別々に行った。しかし実際の選挙において有権者はまず投票するかしないかを決め、その後投票先を決めるということが考えられる。このような装丁の下再び分析をやり直すことが出来ればより有意な結果が得られる可能性がある。
2. 多項ロジットという分析を学習することができた。
3. 質問の一部が投票者のみへの設問だったため、投票者、無投票者を合わせた分析が出来ない箇所があった。
4. 比例区に絞った分析だったので小選挙区と比例区の二つを考慮した分析を行うことが出来ればより有意な結果が得られる可能性が高い。

謝辞

1. 今回利用データを提供して下さった谷口研究会と朝日新聞社に感謝申し上げます。

10. 参考文献

参考文献

★飯田健『計量政治分析』協立出版(2013)

★時事ドットコム; 図解。政治 衆院選・各党の政策比較

http://www.jiji.com/jc/graphics?p=ve_pol_election-syugin20121130j-06-w490

2014年1月2日閲覧

★衆議院選挙2012「政党情報&マニフェスト・公約比較表」| 政治・選挙プラットフォーム【政治山】

http://seijiyama.jp/special/shuinsen2012/party_hikaku.html

2014年1月3日閲覧

★衆院選2012：衆院選：選挙：YOMIURI ONLINE（読売新聞）

<http://www.yomiuri.co.jp/election/shugin/2012/>

2014年11月28日閲覧

★衆院選投票率59・32%、戦後最低の背景に...：ニュース：衆院選2012：衆院選：選挙：YOMIURI ONLINE（読売新聞）

<http://www.yomiuri.co.jp/election/shugin/2012/news/20121217-OYT1T00915.htm>

2014年11月28日閲覧

★東京大学大学院法学政治学研究科・谷口将紀研究室 朝日新聞 共同調査

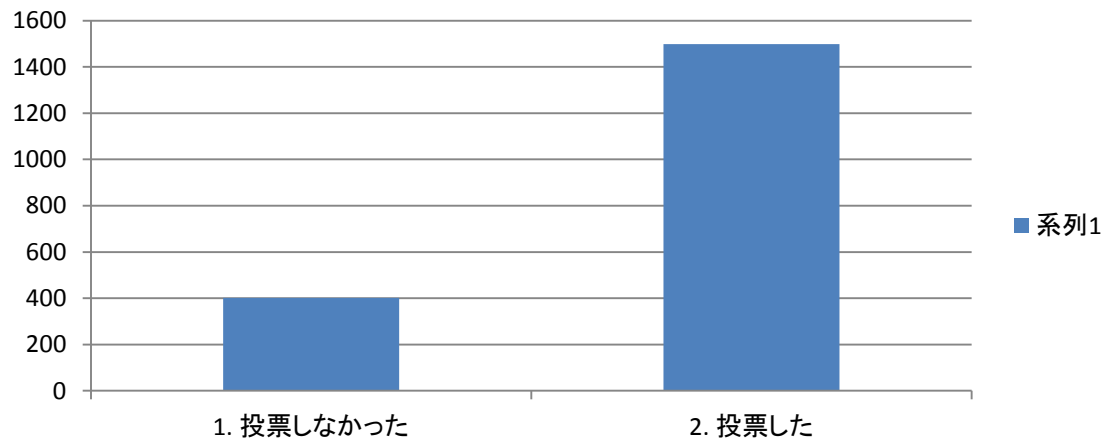
<http://www.masaki.j.u-tokyo.ac.jp/utas/utasv.html>

★『世界』 2013年11号

11. 参考資料(変数の単純集計結果)

参考資料(単純集計結果)

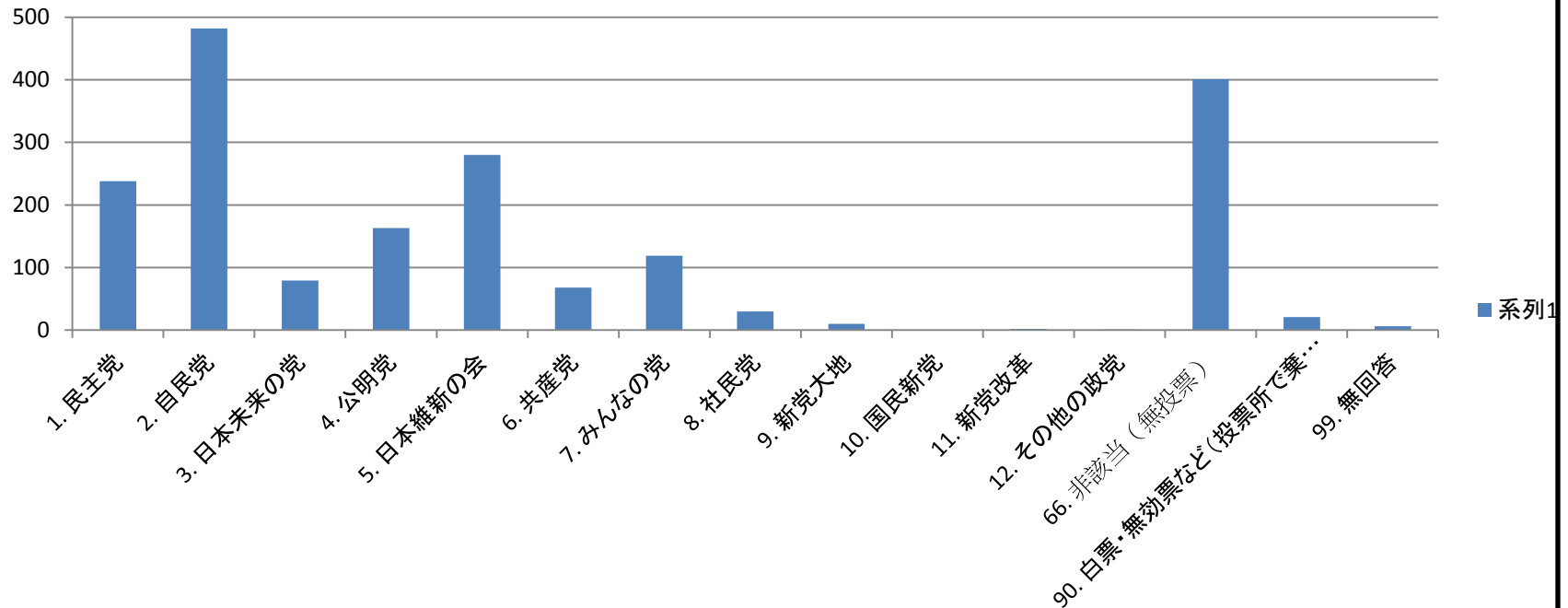
問1 [Q010100] 体調がすぐれなかったり、時間がとれなかったりして、投票に行けないのは決して珍しいことではありません。あなたは、今回の衆議院総選挙で投票されましたか。



※「1. 投票しなかった」に○を付け、かつ問2、問4に回答していた場合は、「2. 投票した」に修正した。無回答であった場合は、問2、問4に回答がある場合は「2. 投票した」とし、回答がない場合は「1. 投票しなかった」とした。(第2回調査も同様。)

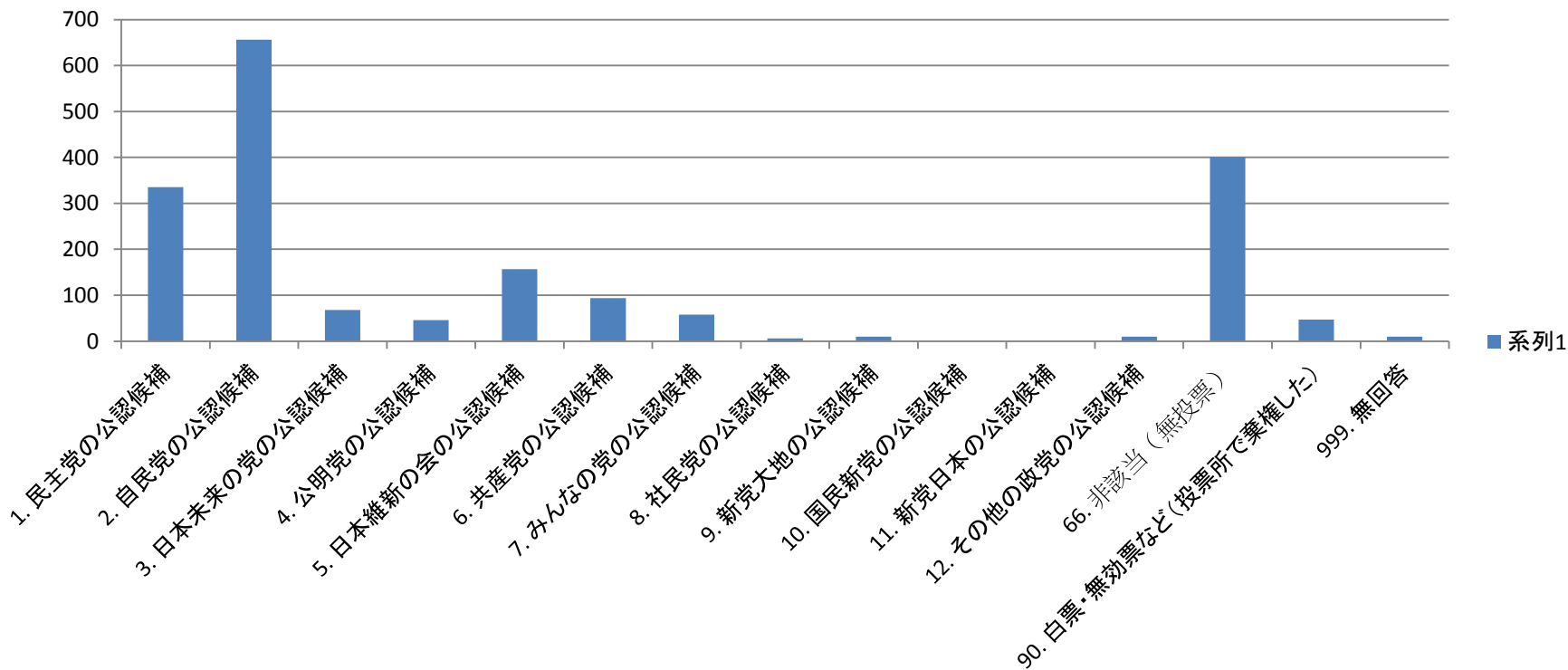
参考資料(単純集計結果)

問2 [Q010200] 比例区では、あなたはどの政党に投票しましたか。1つだけ○を付けてください。



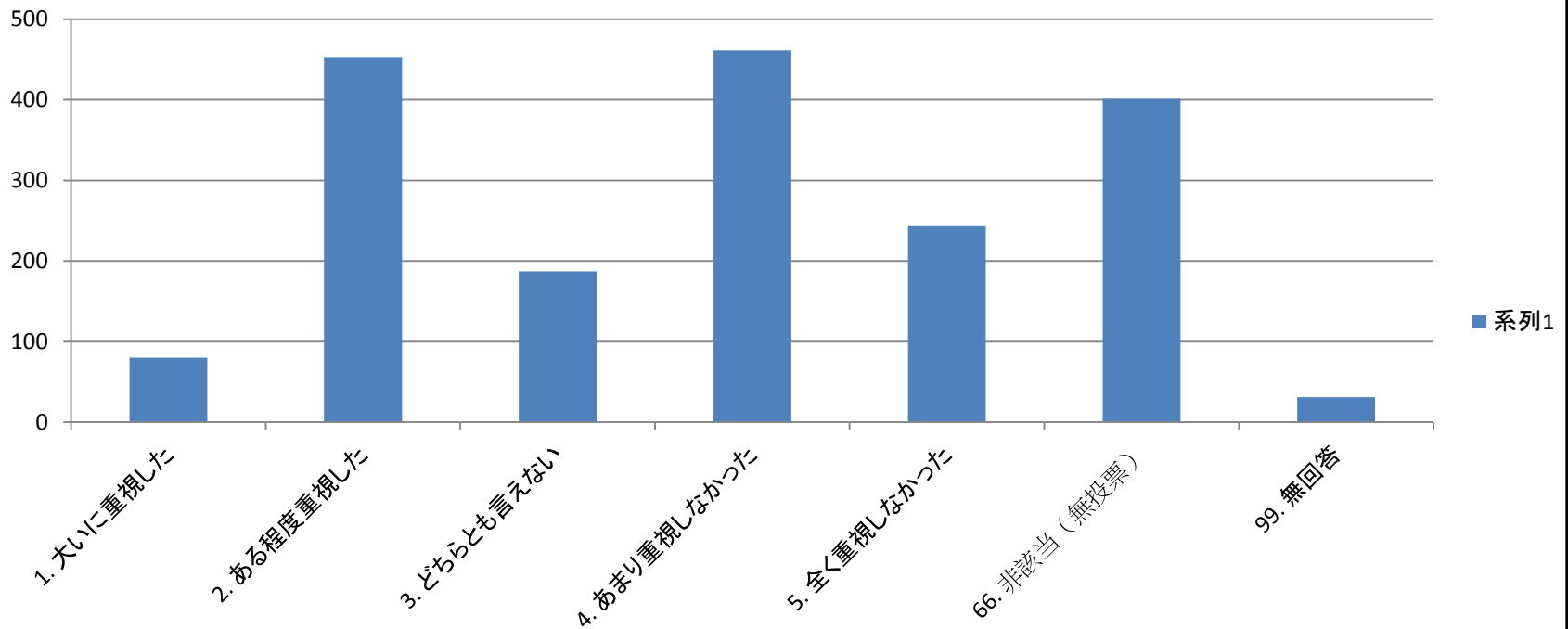
参考資料(単純集計結果)

問4 [Q010400] 小選挙区では、あなたはどの党の候補者に投票しましたか。
1つだけ○を付けてください。



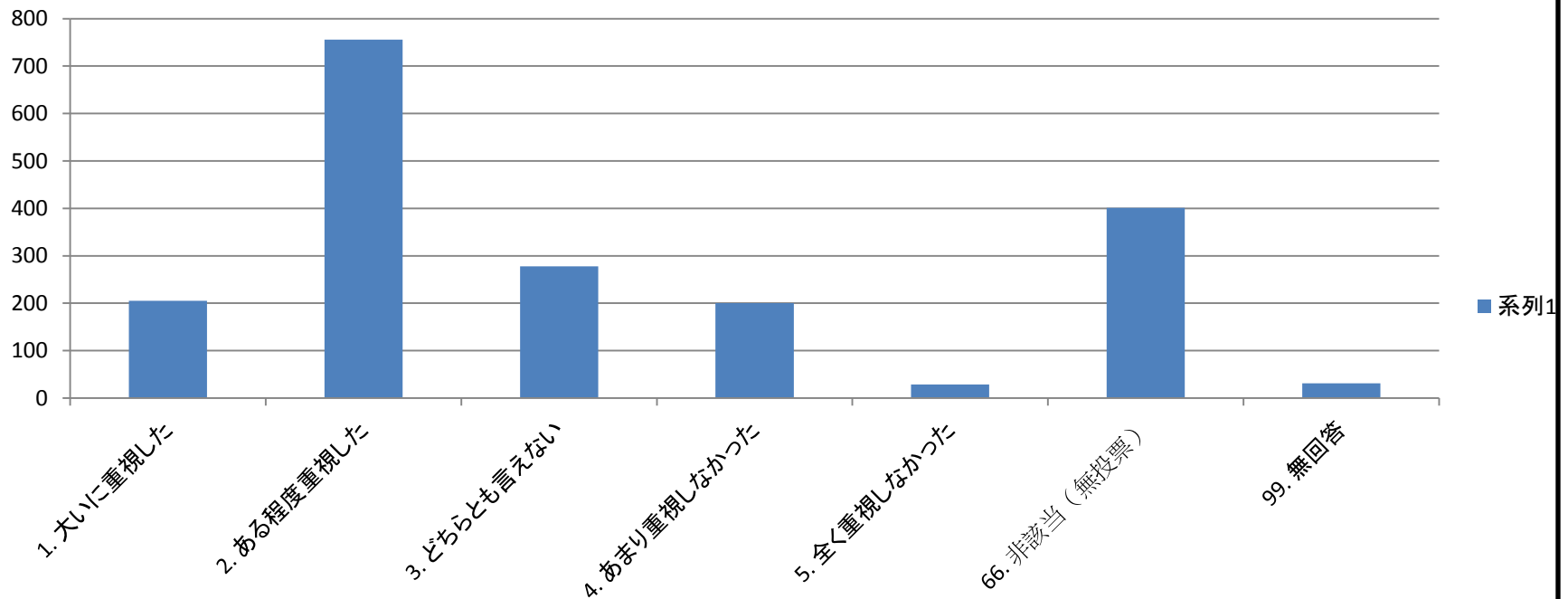
参考資料(単純集計結果)

問13 [Q011300] 今回の選挙で投票した政党や候補者を決めたとき、マスメディアが報じる選挙情勢(どの政党やどの候補が優勢/劣勢か)については、どの程度重視しましたか。1つだけ○を付けてください。



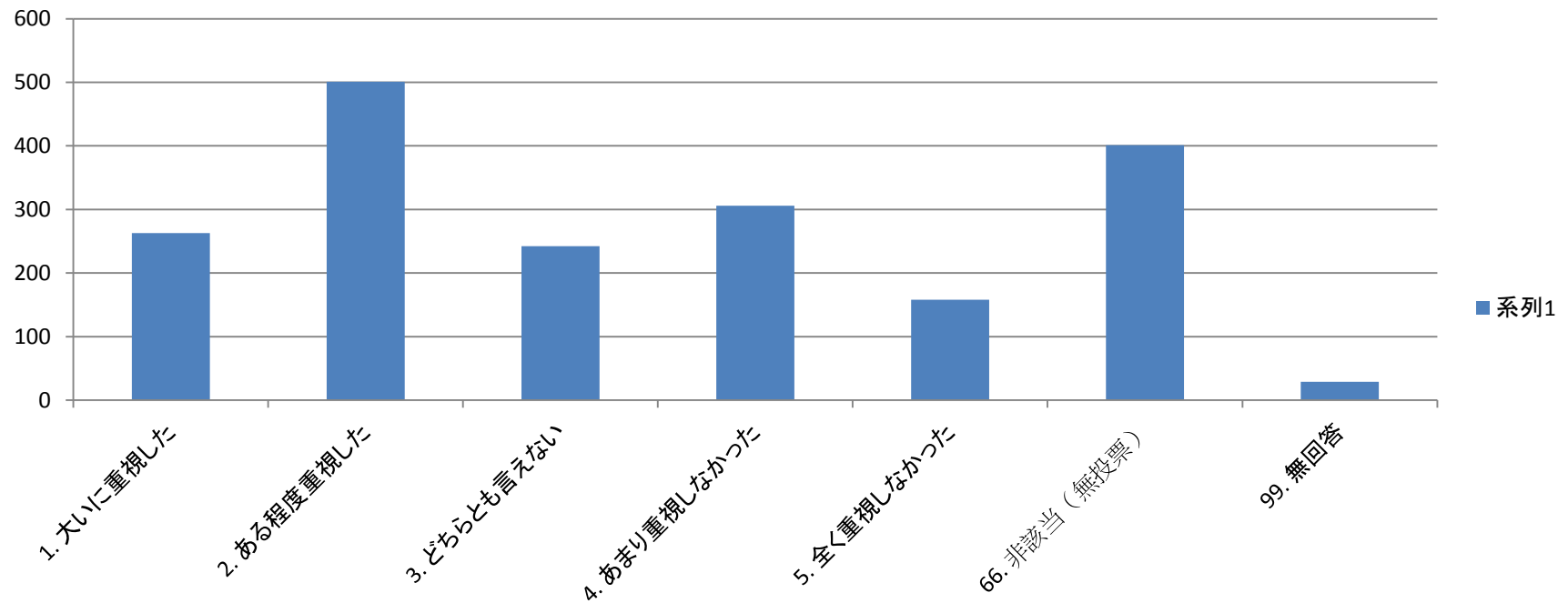
参考資料(単純集計結果)

問14 [Q011400] 今回の選挙で投票した政党や候補者を決めたとき、政党や候補者が掲げる政策や公約については、どの程度重視しましたか。1つだけ○を付けてください。



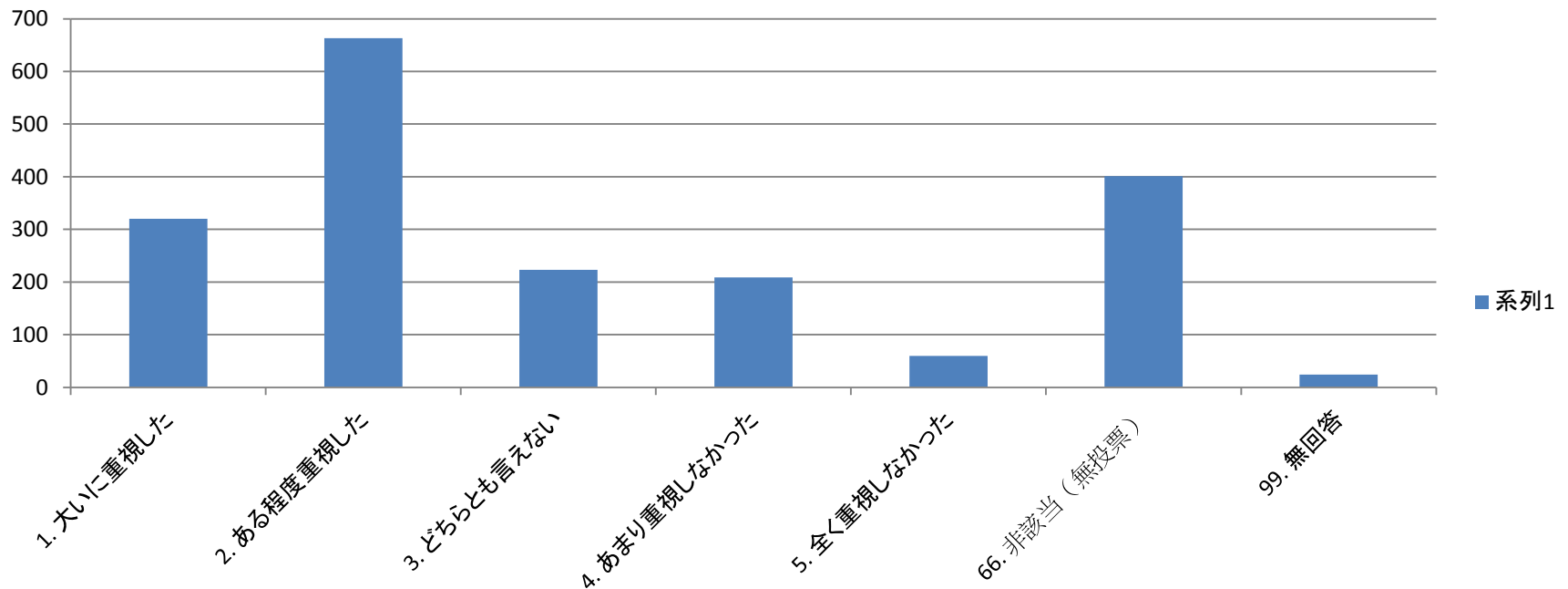
参考資料(単純集計結果)

問15 [Q011500] 今回の選挙で投票した政党や候補者を決めたとき、民主党政権の仕事ぶり(の良し悪し)については、どの程度重視しましたか。1つだけ○を付けてください。



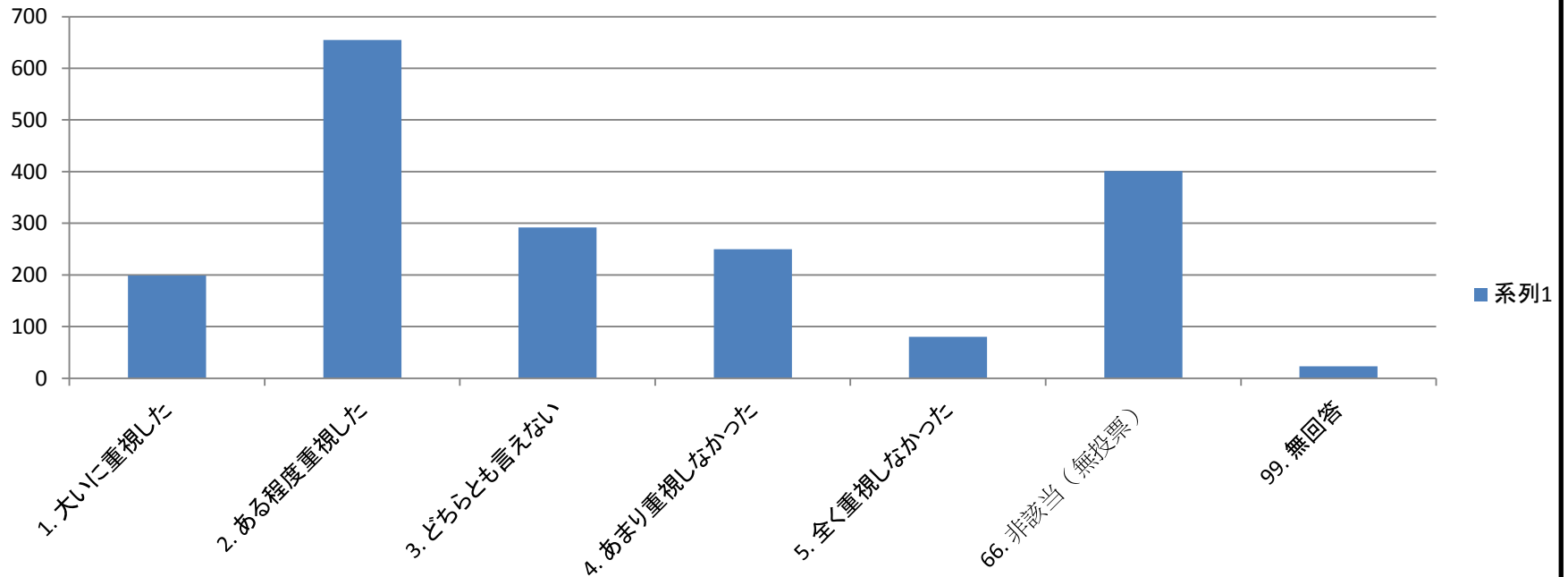
参考資料(単純集計結果)

問16 [Q011600] 今回の選挙で投票した政党や候補者を決めたとき、政党の党首の能力や魅力(の有無)については、どの程度重視しましたか。1つだけ○を付けてください。



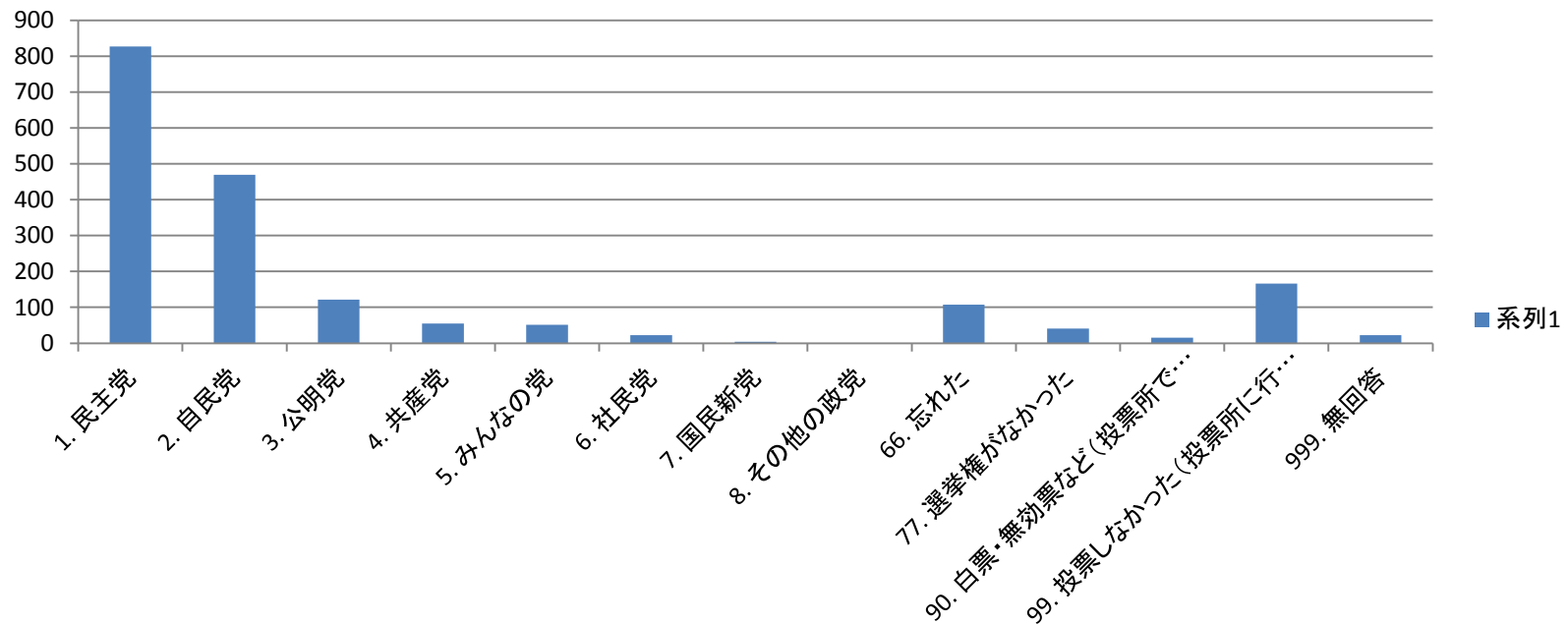
参考資料(単純集計結果)

問17 [Q011700] 今回の選挙で投票した政党や候補者を決めたとき、個々の候補者の能力や魅力(の有無)については、どの程度重視しましたか。1つだけ○を付けてください。



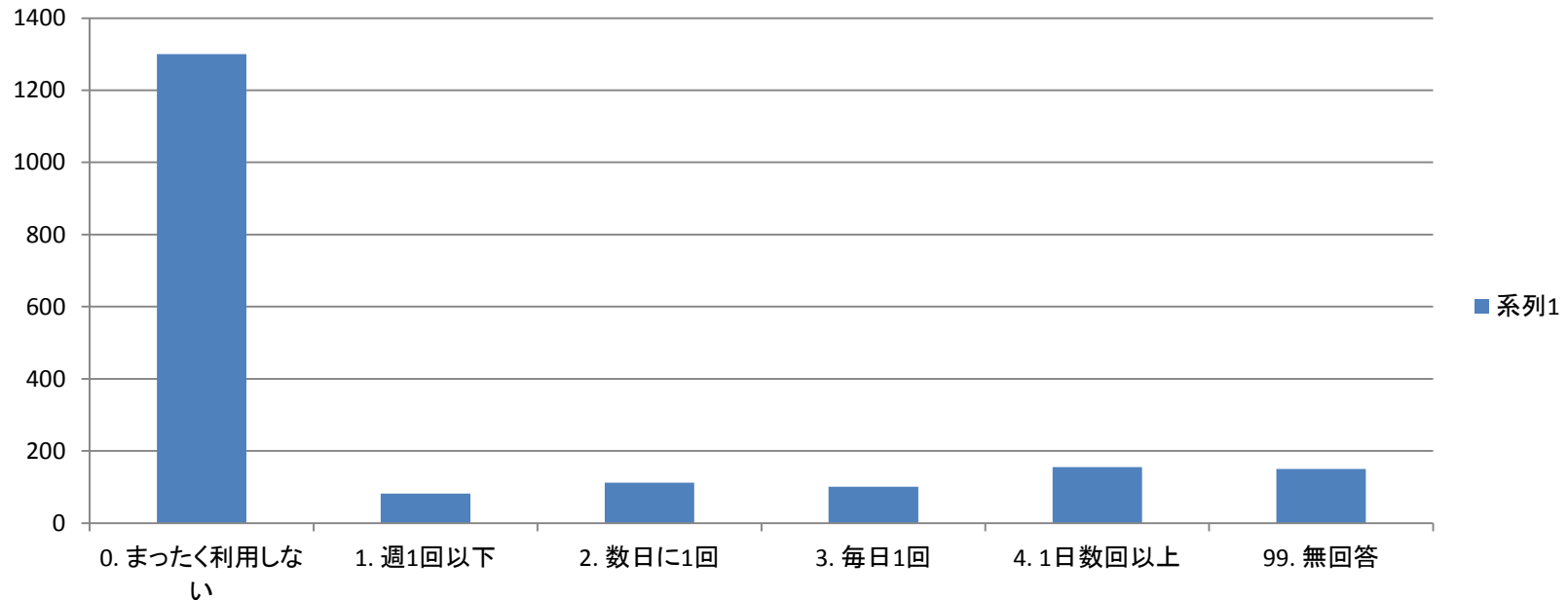
参考資料(単純集計結果)

問19 [Q011900] あなたは、2009年8月に行われた前回の衆議院総選挙の比例区では、どの党に投票しましたか。1つだけ○を付けてください。



問25の説明(SNS利用意向因子)

問25 [Q012500] あなたは、普段インターネットで、ツイッターやフェイスブックなどのSNS(ソーシャルネットワークサービス)をどのくらい利用していますか。



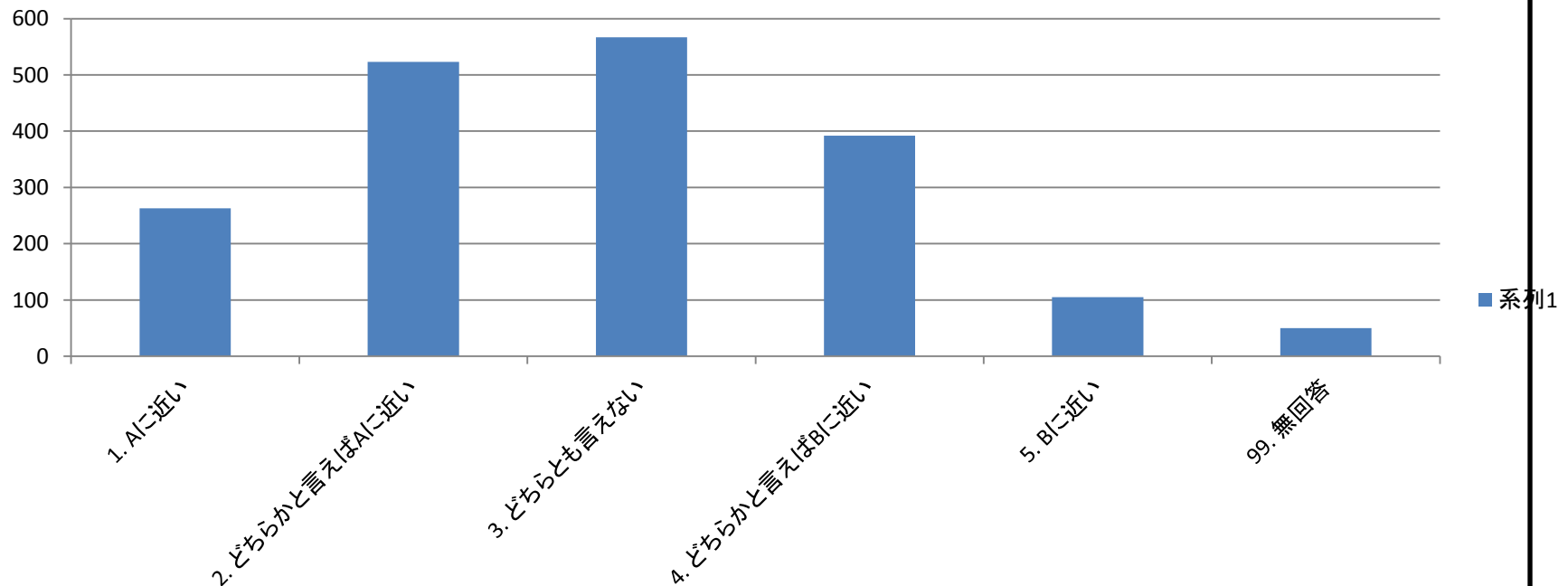
参考資料(単純集計結果)

問31-1

① [Q013101]

A: これからの日本外交の優先順位は「まず米国」である

B: これからの日本外交の優先順位は「まずアジア」である



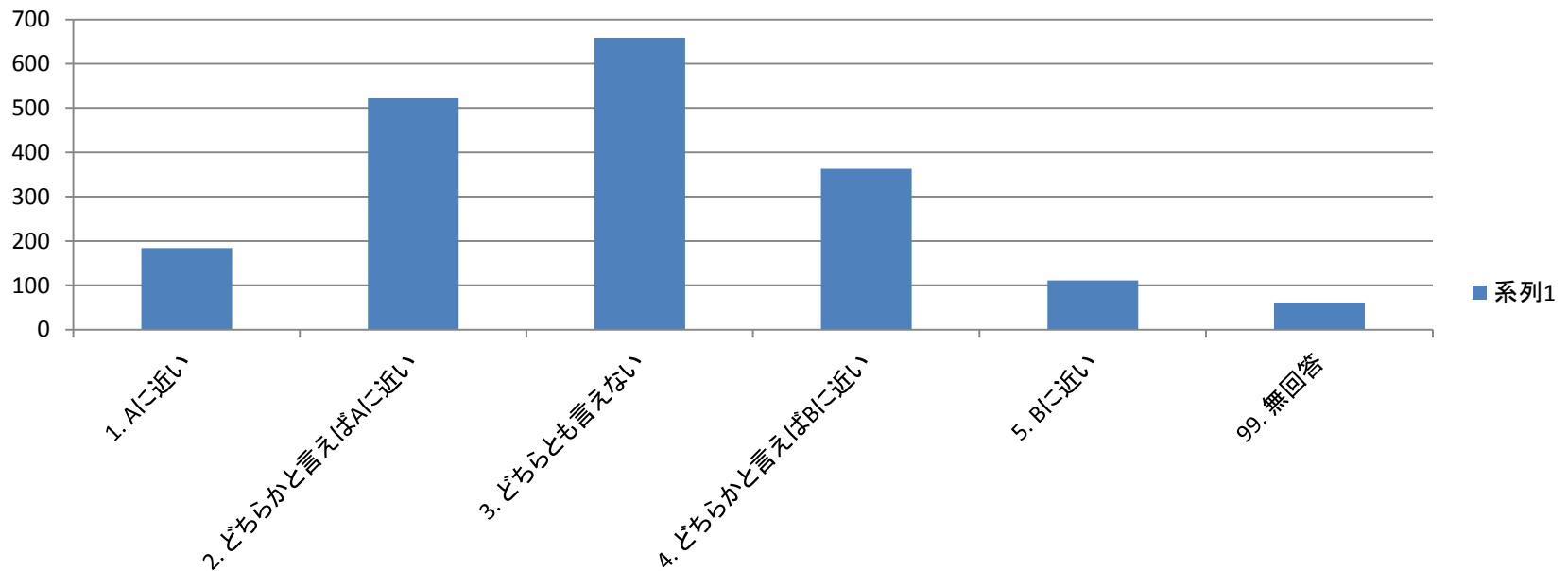
参考資料(単純集計結果)

問31-2

② [Q013102]

A: 社会的格差が多少あっても、いまは経済競争力の向上を優先すべきだ

B: 経済競争力を多少犠牲にしても、いまは社会的格差の是正を優先すべきだ



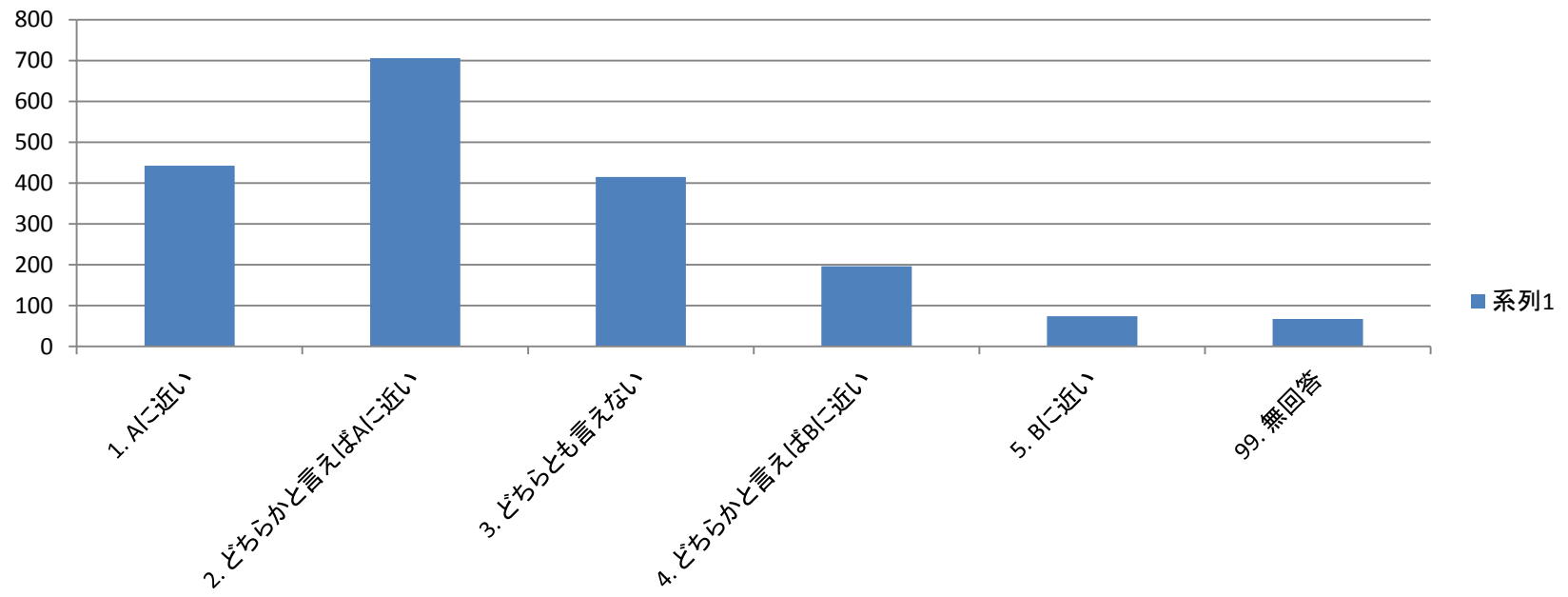
参考資料(単純集計結果)

問31-3

③ [Q013103]

A: 国内産業を保護すべきだ

B: 貿易や投資の自由化を進めるべきだ



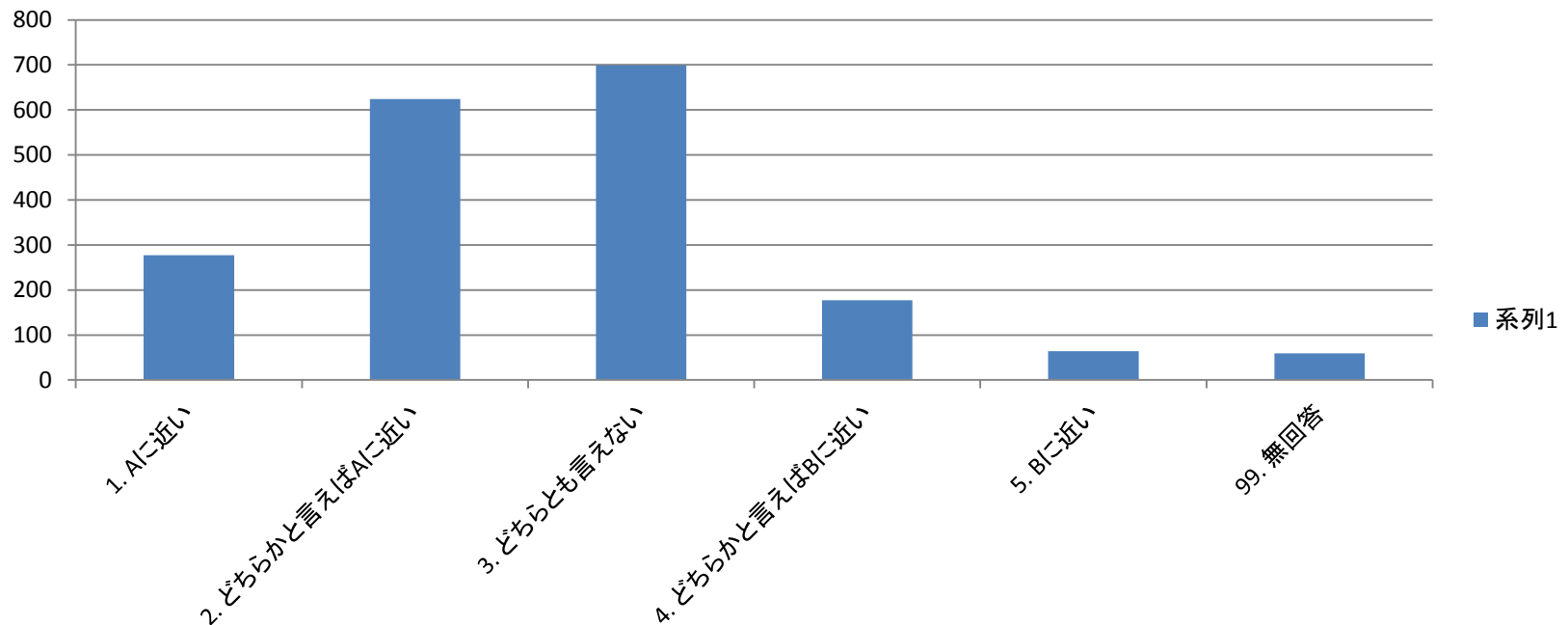
参考資料(単純集計結果)

問31-4

④ [Q013104]

A: 環境を守るため、生活水準を犠牲にすることも必要だ

B: 生活水準を犠牲にするほど、環境保護は重要問題ではない



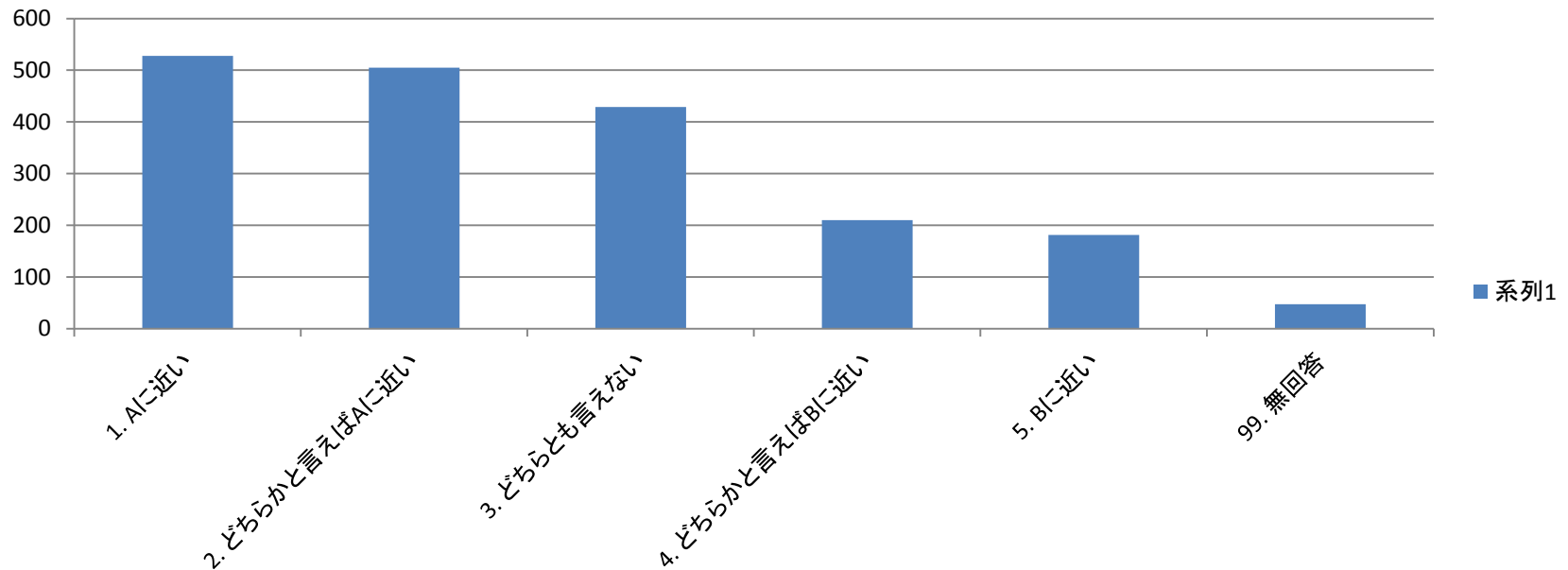
参考資料(単純集計結果)

問31-5

⑤ [Q013105]

A: 夫婦と複数の子どもが揃っているのが家族の基本形だ

B: シングルマザーやDINKSなど家族の形は多様でよい



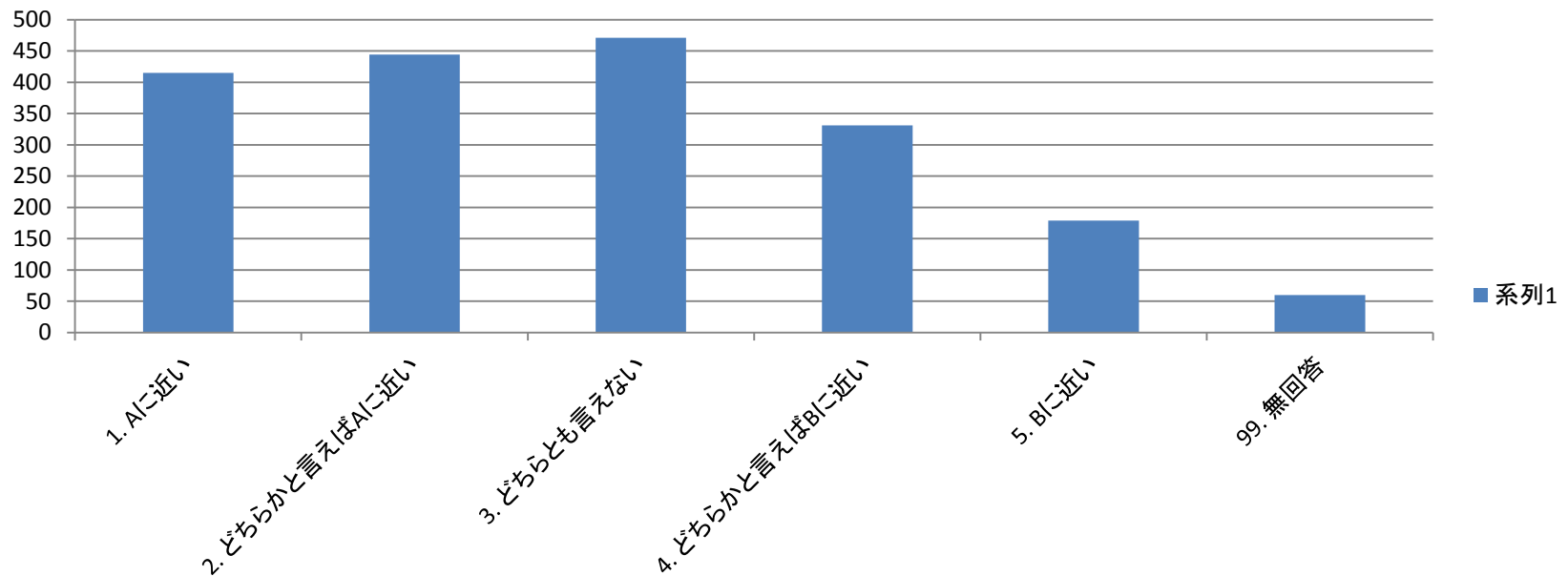
参考資料(単純集計結果)

問31-6

⑥ [Q013106]

A: 電力に占める原子力発電の比率を、2030年代までに0%にすべきだ

B: 2030年代より後も、原子力発電は電力源のひとつとして保つべきだ



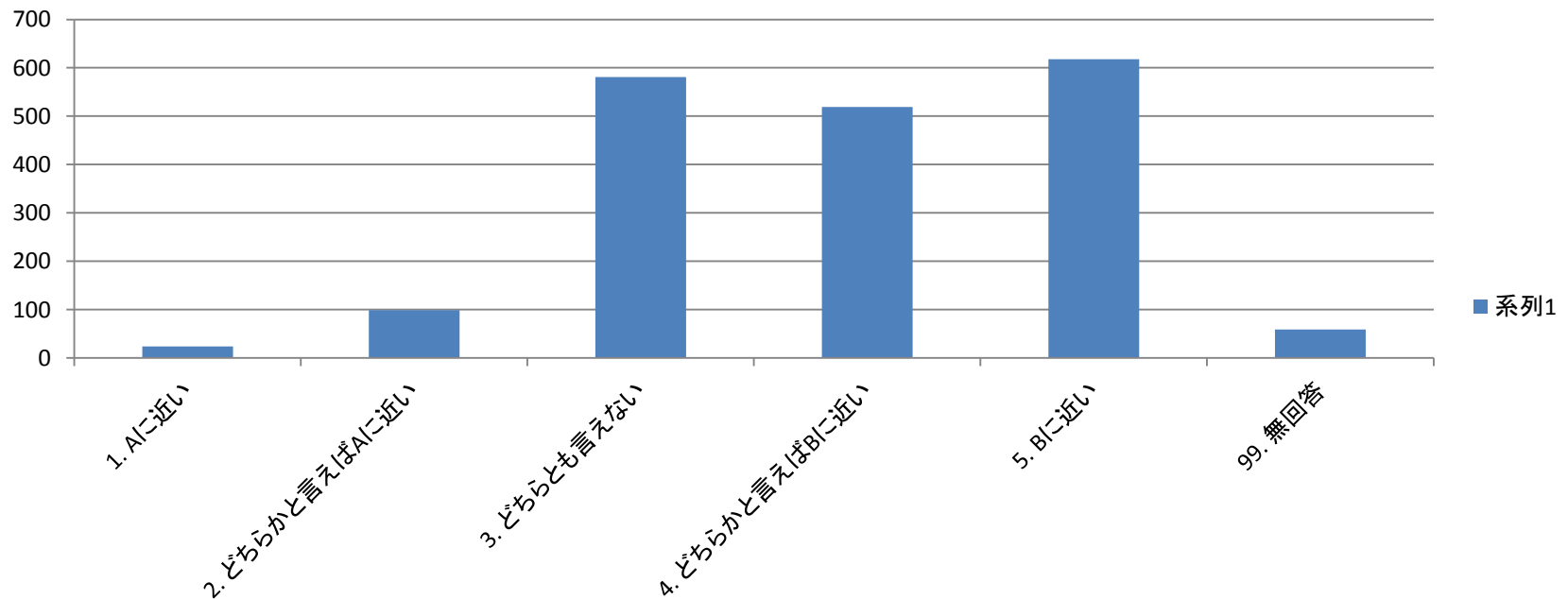
参考資料(単純集計結果)

問31-7

⑦ [Q013107]

A: 現状の政治資金に関する規制は厳し過ぎる

B: 政治資金に関する規制をもっと厳しくすべきだ



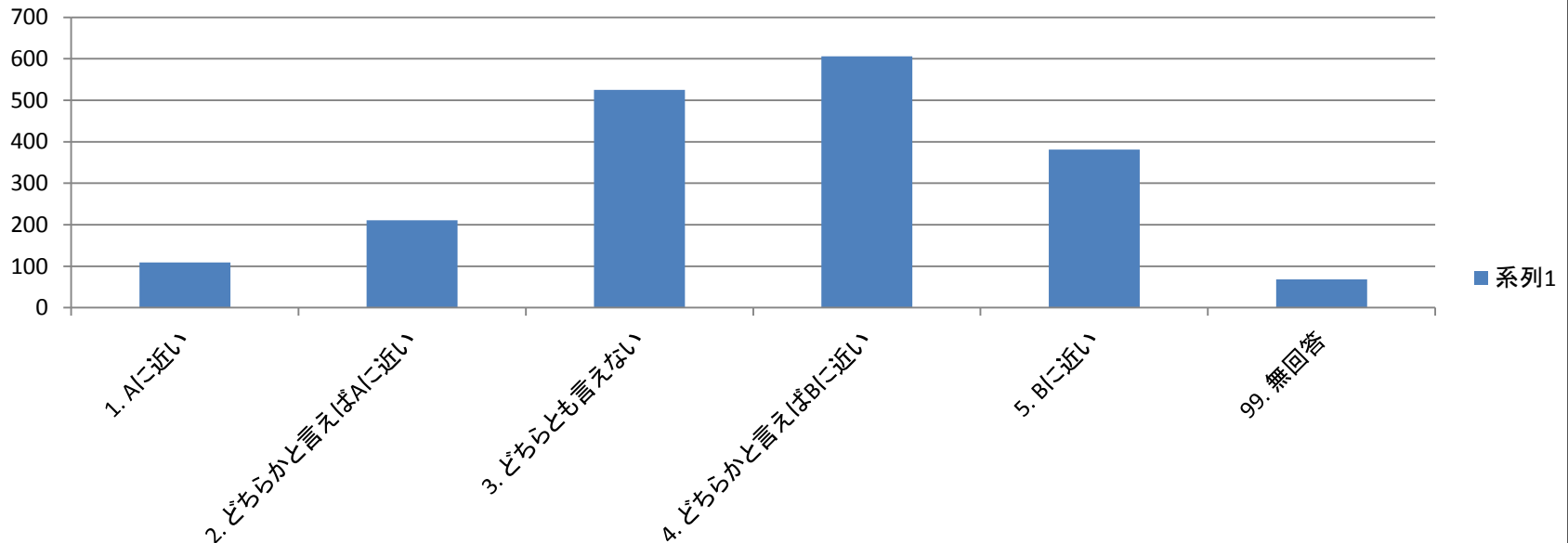
参考資料(単純集計結果)

問31-8

⑧ [Q013108]

A: 国会の第一義的な役割は、与野党が議論を闘わせ、国民に対して争点の所在や政党間の立場の違いを示すことにある

B: 国会の第一義的な役割は、与野党が意見を調整して、なるべく多くの国民の意思を法律に反映させることにある



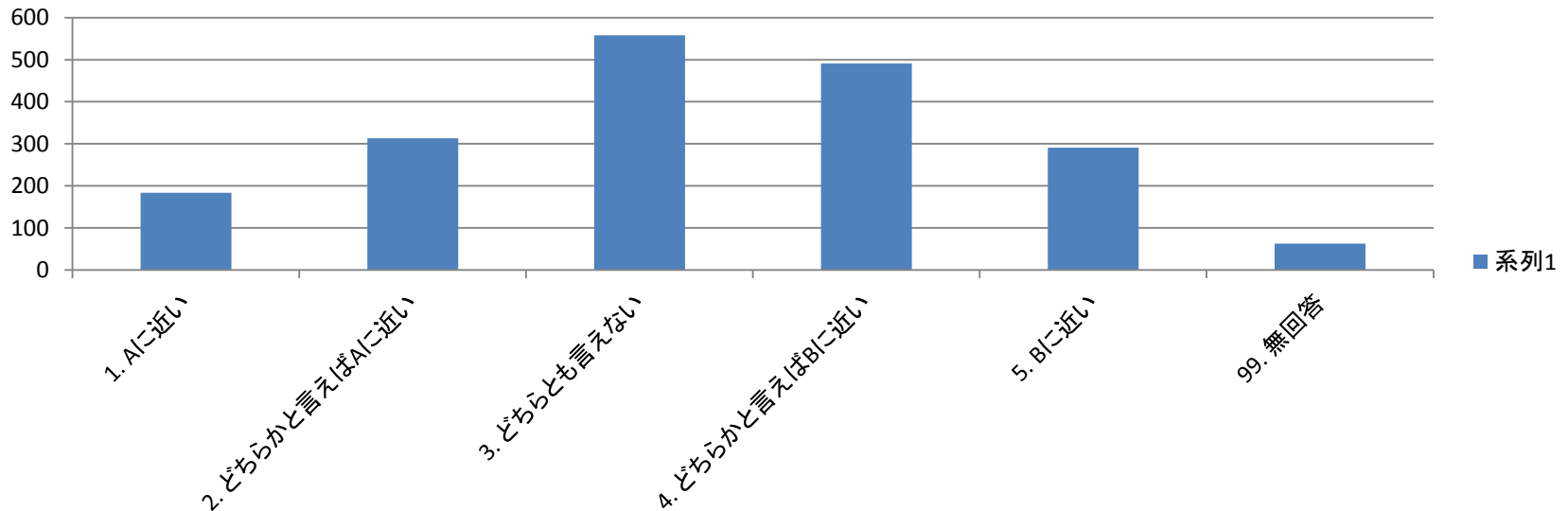
参考資料(単純集計結果)

問31-9

⑨ [Q013109]

A: 国会での採決時、政党はなるべく党議拘束をかけて、所属議員が全員一致して行動することが望ましい

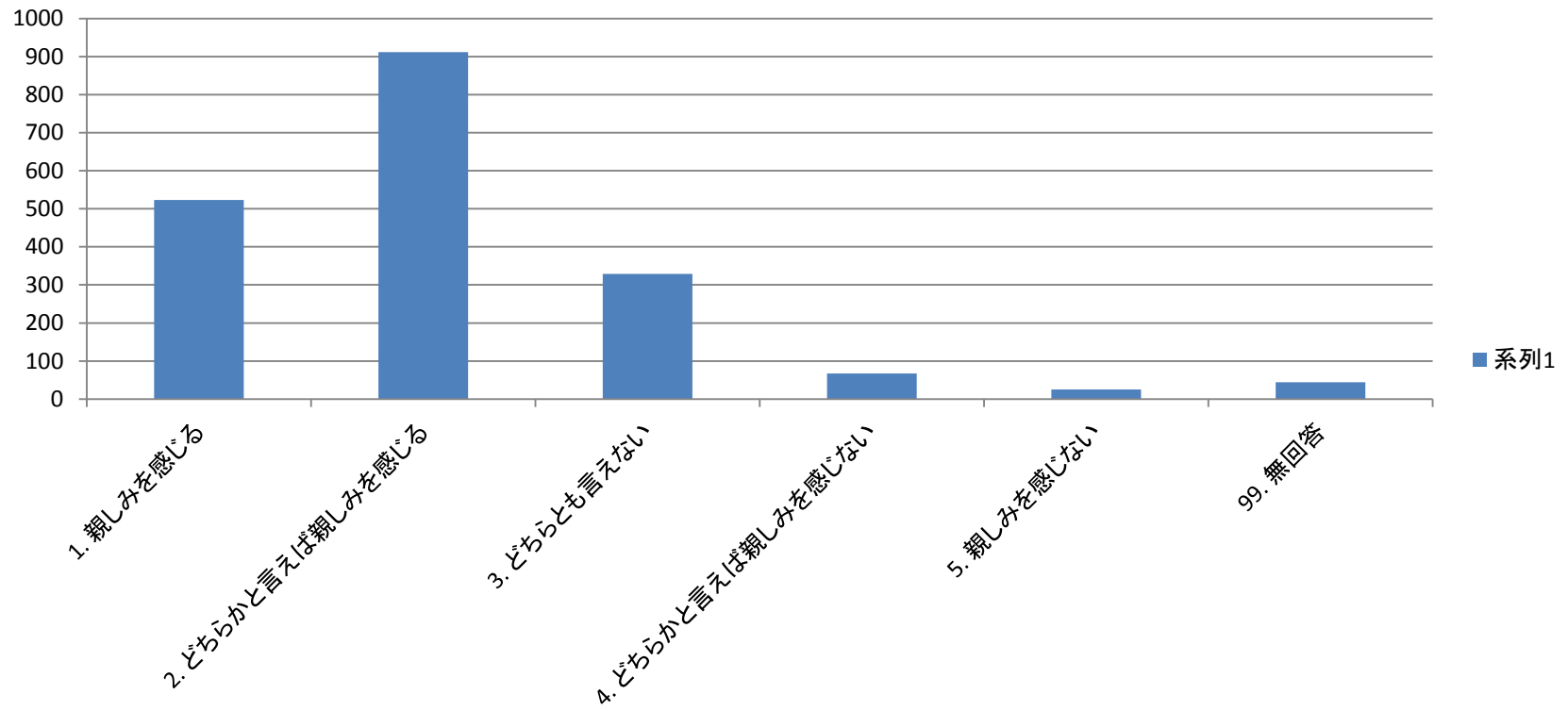
B: 国会での採決時、政党はなるべく党議拘束を外して、所属議員がそれぞれ判断して行動することが望ましい



参考資料(単純集計結果)

問32-1

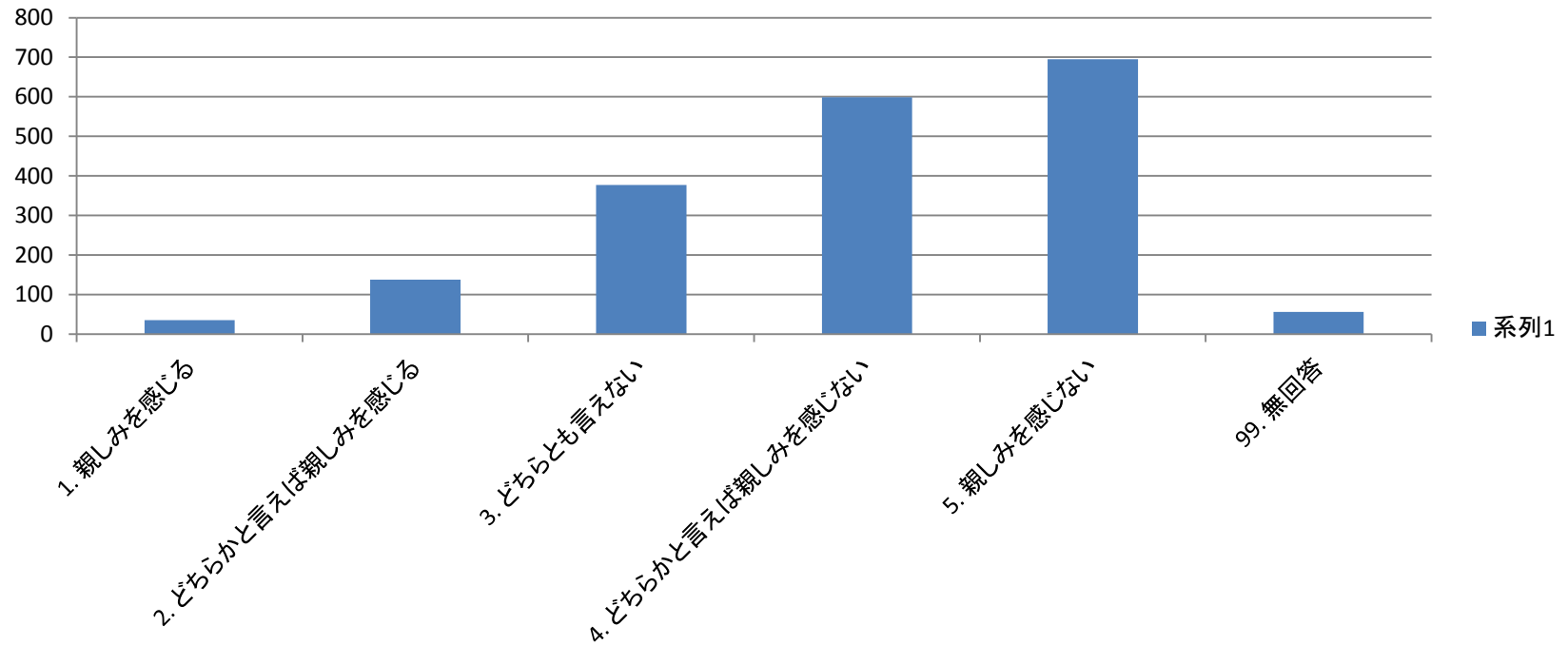
① [Q013201] アメリカ



参考資料(単純集計結果)

問32-2

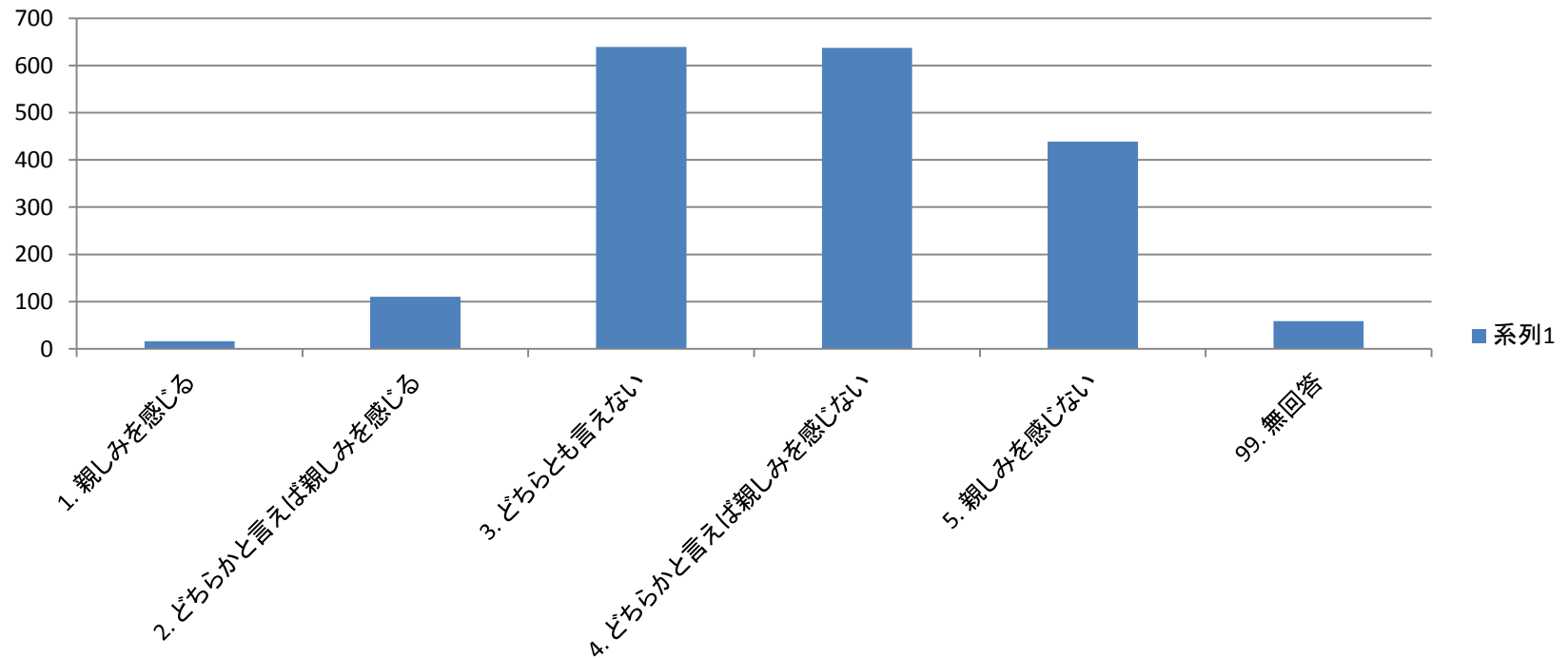
② [Q013202] 中国



参考資料(単純集計結果)

問31-3

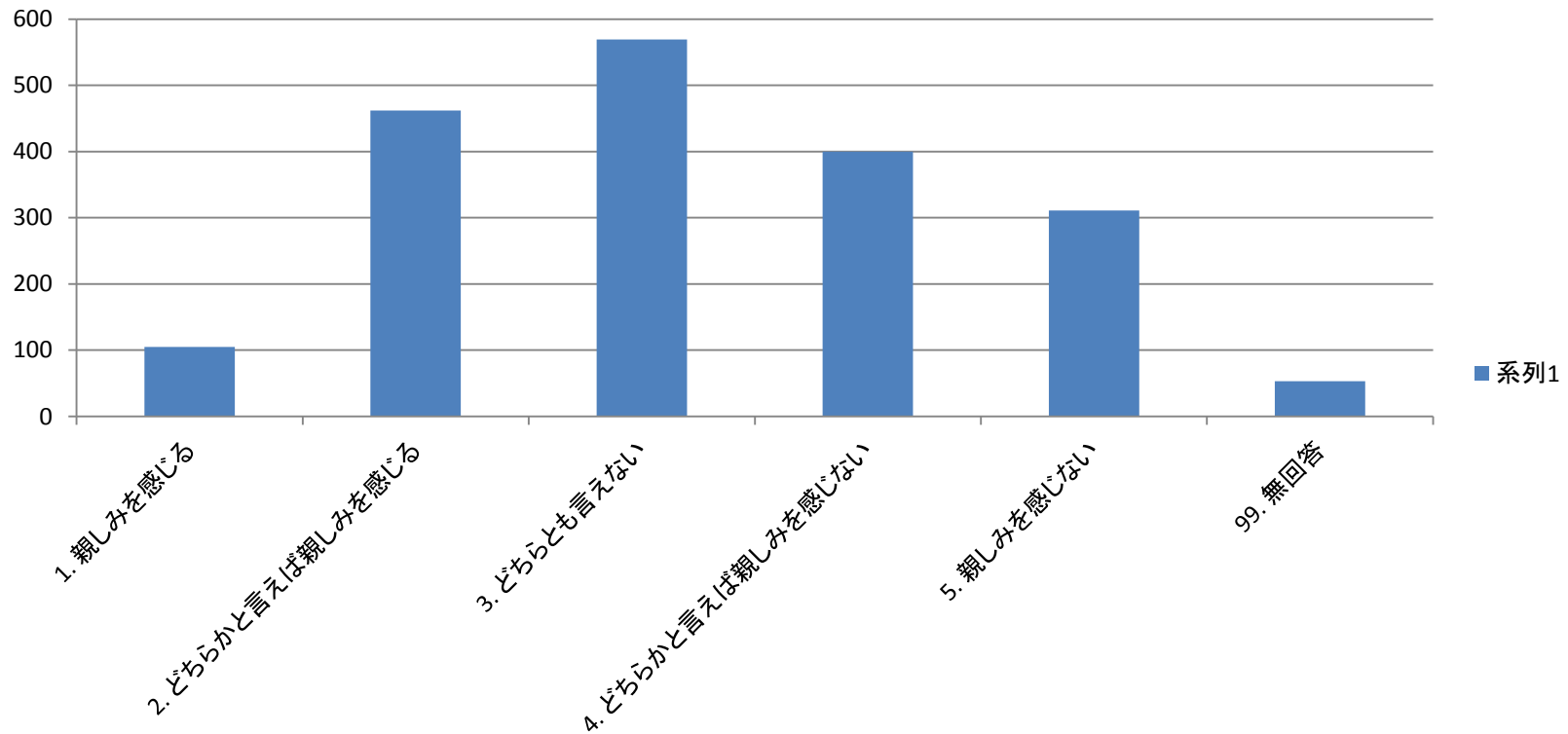
③ [Q013203] ロシア



参考資料(単純集計結果)

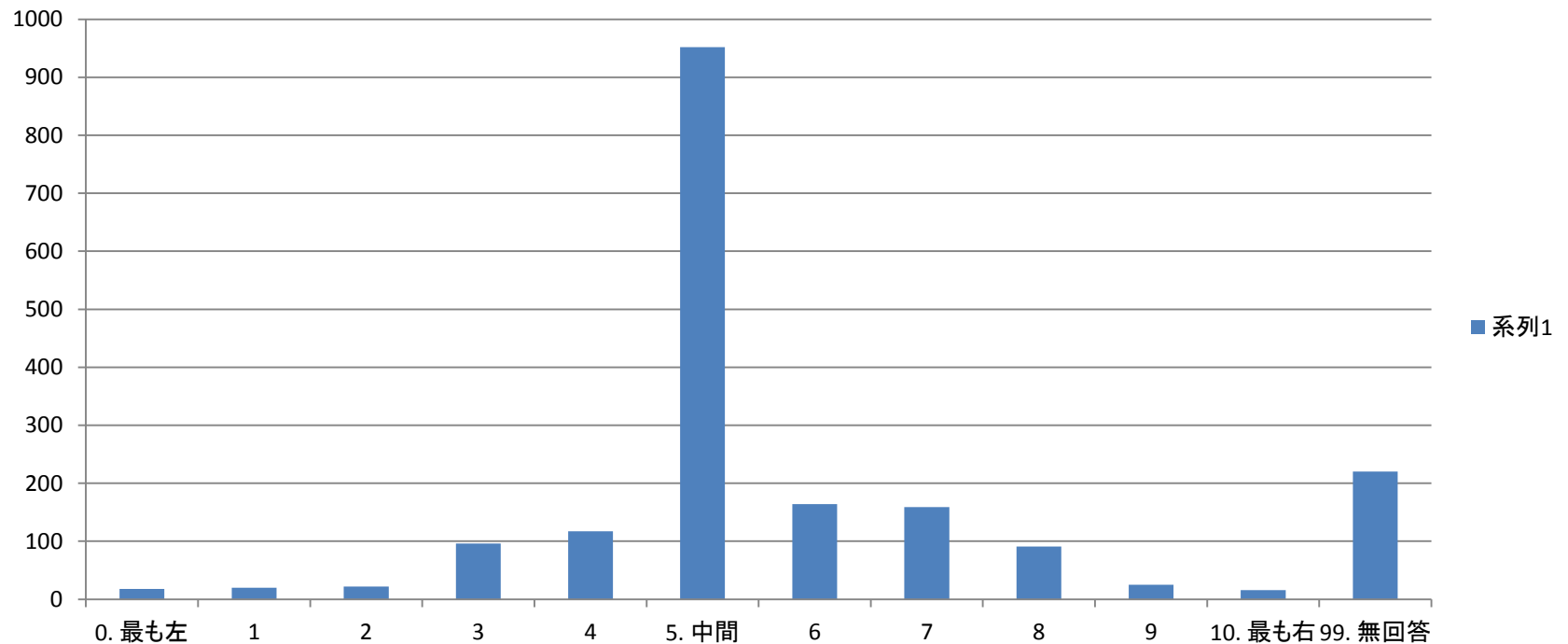
問31-4

④ [Q013204] 韓国



参考資料(単純集計結果)

問33 [Q013300] 政治の立場を「左」-「右」の言葉で表現することがよくあります。このものさしで、あなたの立場を示されるとしたらいかがですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけて下さい。



参考資料(単純集計結果)

問42

あなたは、2012年12月16日現在では何十歳代ですか。

